

# 釜石市多文化共生推進プラン

## Kamaishi City Multiculturalism Promotion Plan



2021年3月

March, 2021

釜石市

## 『多文化共生』とは

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

（総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書」（平成 18 年 3 月）より）

## 『外国人市民等』とは

外国籍の人、また、日本国籍を有する人であっても外国にルーツを持つ人で、釜石市に生活の拠点を有する人のこと。

例えば、研修生や技能実習生など 1 年程度の滞在であっても対象となる。また、日本国籍を有する人であっても、外国人の親の文化・歴史を背景に持つ子どもなど、外国にルーツがあり、外国籍の人と同様の課題を持つ市民を含む。

## 目次

I.	プラン策定の趣旨	4
1	プラン策定の背景と意義	4
2	プランの位置づけ	5
3	プランの期間	5
II.	目的	6
III.	釜石市の多文化共生における現状と課題	7
1	在留外国人の状況	7
2	現状と課題	11
(1)	外国人市民等の暮らしについて	14
(2)	人材育成について	17
(3)	国際理解について	18
IV.	目指すべき将来像	20
V.	当市における多文化共生推進のための施策の方向	23
1	外国人市民等が安心して暮らせるまちづくり	23
2	市の国際化に貢献できる人材の育成	27
3	市民の国際理解推進	31
4	外国都市との交流	33
VI.	推進体制	36

## 資料

多文化共生に関する在留外国人意識調査結果の概要	37
-------------------------	----

## I. プラン策定の趣旨

### 1 プラン策定の背景と意義

国では、多文化共生の地域づくりを推進するため、平成 18（2006）年 3 月に策定した「地域における多文化共生推進プラン」において、都道府県レベルにおける多文化共生の推進に関する指針・計画の策定を都道府県の役割として規定しました。

また、令和 2（2020）年 9 月には、外国人住民の増加・多国籍化、在留資格「特定技能」の創設、多様性・包摂性のある社会<sup>※1</sup>実現の動き、デジタル化の進展、気象災害の激甚化といった社会経済情勢の変化を踏まえ、プランの改定を行いました。

岩手県では、平成 22（2010）年 3 月に平成 22 年度から平成 26（2014）年度までの 5 年間を計画期間とする「岩手県多文化共生推進プラン」を、平成 27（2015）年 3 月に平成 27 年度から令和元（2019）年度までの 5 年間を計画期間とする「岩手県多文化共生推進プラン（改訂版）」をそれぞれ策定し、多文化共生社会の実現に向けて取り組んできたところですが、当計画の計画期間が終了することに伴い、これまでの社会情勢の変化等を踏まえた上で、今後の岩手県における多文化共生社会の実現に向けた新たな施策方向を定める「岩手県多文化共生推進プラン（2020～2024）」を策定しました。

当市では、これまで国や岩手県のような多文化共生推進プランがありませんでした。

しかし、令和元（2019）年に開催されたラグビーワールドカップ 2019™日本大会岩手・釜石開催や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウン登録を契機とし、インバウンド<sup>※2</sup>対策や青少年を中心とした国際交流事業に積極的に取り組んでいく中で、多文化共生の機運が芽生えてきました。

このことを好機ととらえ、これらで培ったものをレガシー（遺産）として大切に育て、当市にも多文化共生社会を構築すべくプランが必要であると考えます。

今般策定の第六次釜石市総合計画におきましては、計画推進の一要素として「多様な連携と交流によるまち」を掲げ、世界とつながる三陸の交流拠点を目指すこととしています。

本プランは、訪日外国人や市内在住外国人の多様なニーズ・困りごとの解決に向け、市民と外国人が共に文化的違いを認め合い生活できるまちづくりを進めるため、多文化共生の考え方について広く普及を図るとともに、多文化共生社会の実現に向けた取組を進めようと策定するものです。



#### 語句解説※1 【多様性・包摶性のある社会】

様々な国籍・人種・性別など、人の属性の違いによってその人を排除しない社会のこと。なお包摶性は「誰ひとり取り残さない」というキーワードで表現され、持続可能な開発目標（SDGs）の基本的理念のひとつとして掲げられています。



#### 語句解説※2 【インバウンド】

海外からの観光客を指します。逆に日本から海外へ旅行することを「アウトバウンド」と言います。

## 2 プランの位置づけ

本プランは、「第六次釜石市総合計画」（令和3（2021）年3月策定）の下位計画であり、同計画を推進するための一つの基本方向としての「多様な連携と交流によるまち」を目指すことを示しており、当市における多文化共生施策を総合的かつ計画的に推進するためのプランです。また、当市が策定している他の各種計画等と整合を図りつつ、補完・連携するものです。

## 3 プランの期間

本プランの計画期間は、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間とし、「第六次釜石市総合計画」で定められている10年後の目標値を確実に達成するために、5年後に計画の見直しを行います。

## Ⅱ. 目的

本計画は、市において多文化共生施策を推進し、次の i ～ iii を図ることを目的とします。

- i グローバルな視点を持ち多様性を認め合える市民が育つまちづくり
- ii 外国人市民等の社会参画による地域の活性化
- iii 外国人市民等を含む全ての人にとって暮らしやすいまちの実現

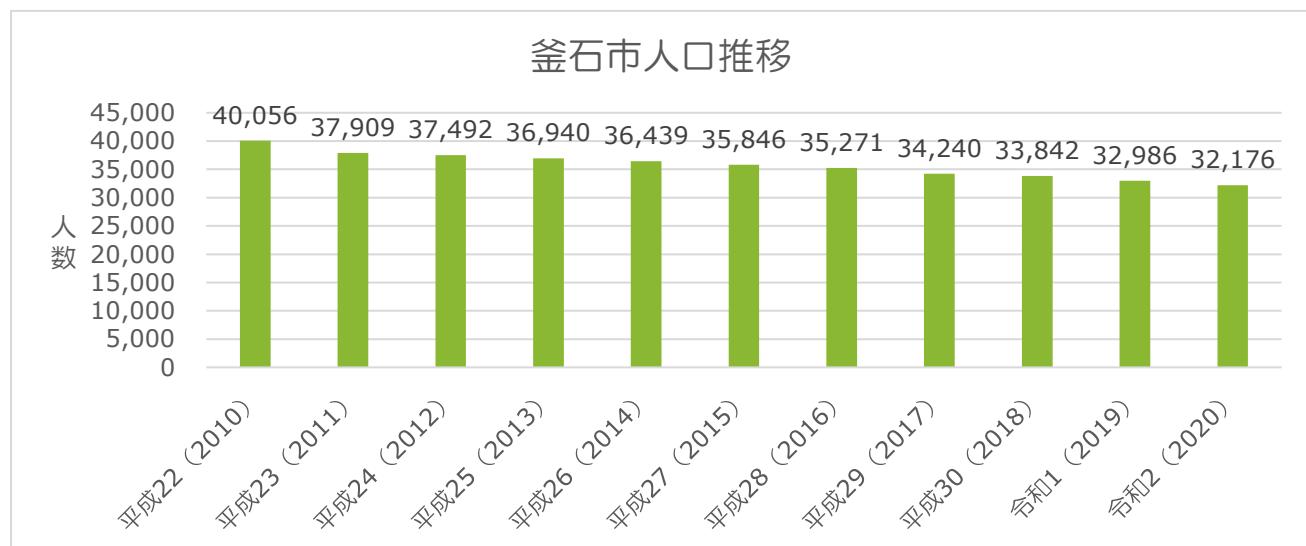
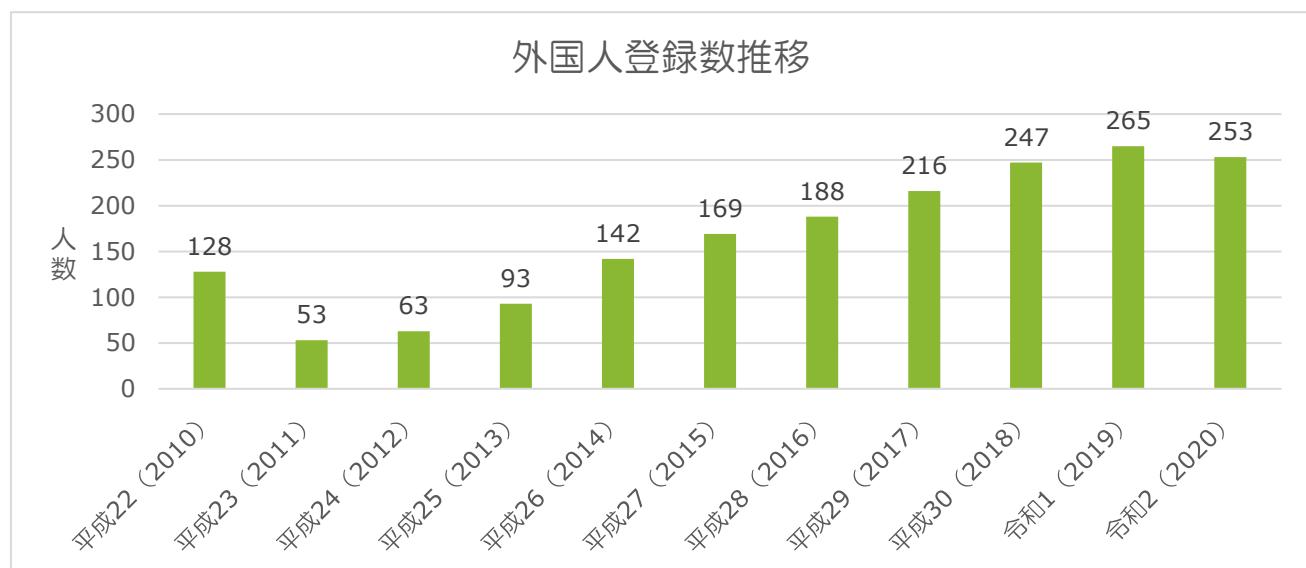
### III. 釜石市の多文化共生における現状と課題

#### 1 在留外国人の状況

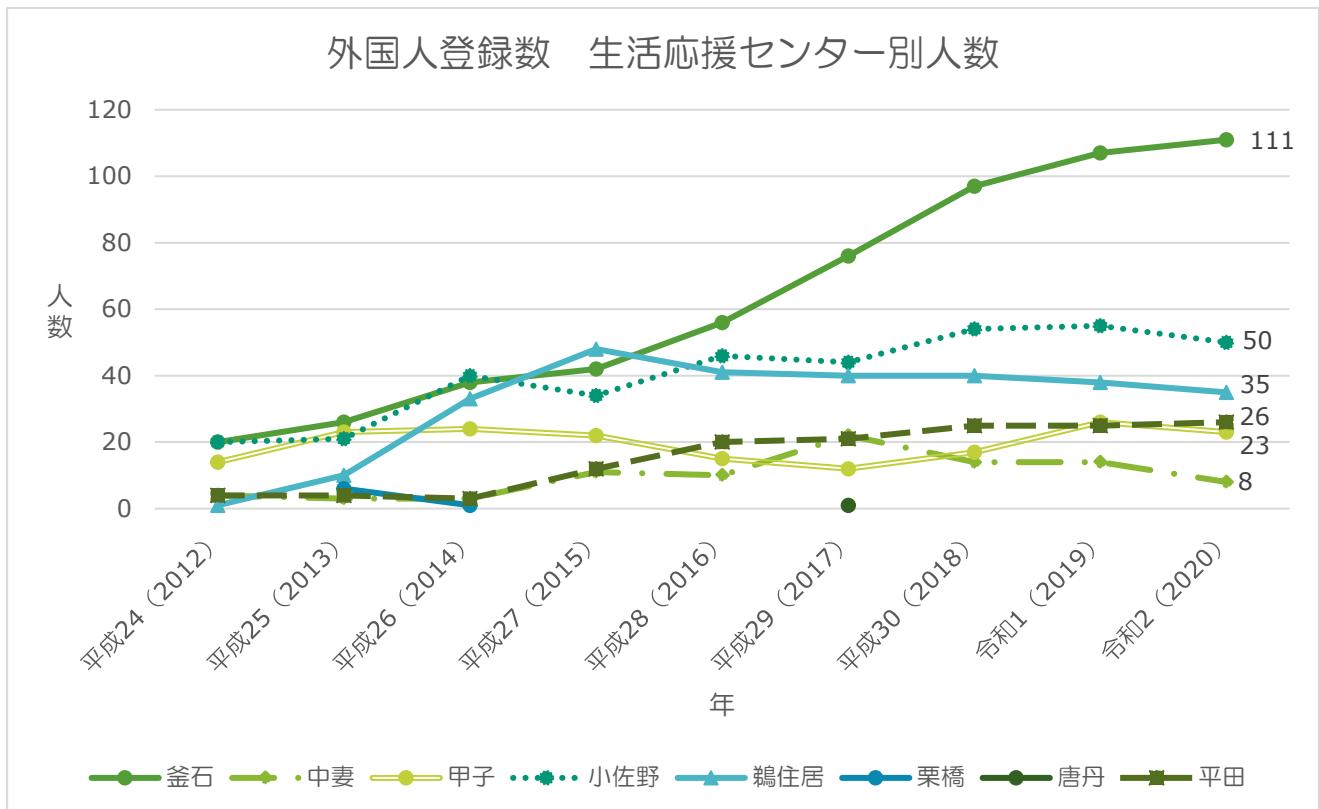
本市における在留外国人は、令和2（2020）年12月31日現在253人です。

平成23（2011）年に発生した東日本大震災の前年には在留外国人は128人でしたが、震災後に中国人の技能実習生などが本国に帰国するなどしたため翌年には53人と半分以下に減少しました。令和2（2020）年には新型コロナウイルスの影響で技能実習生の入国が少なかったため前年より少なくなっていますが、近年はアジア圏を中心とする海外からの技能実習生が増加傾向にあるため震災前と比較すると倍増しています。

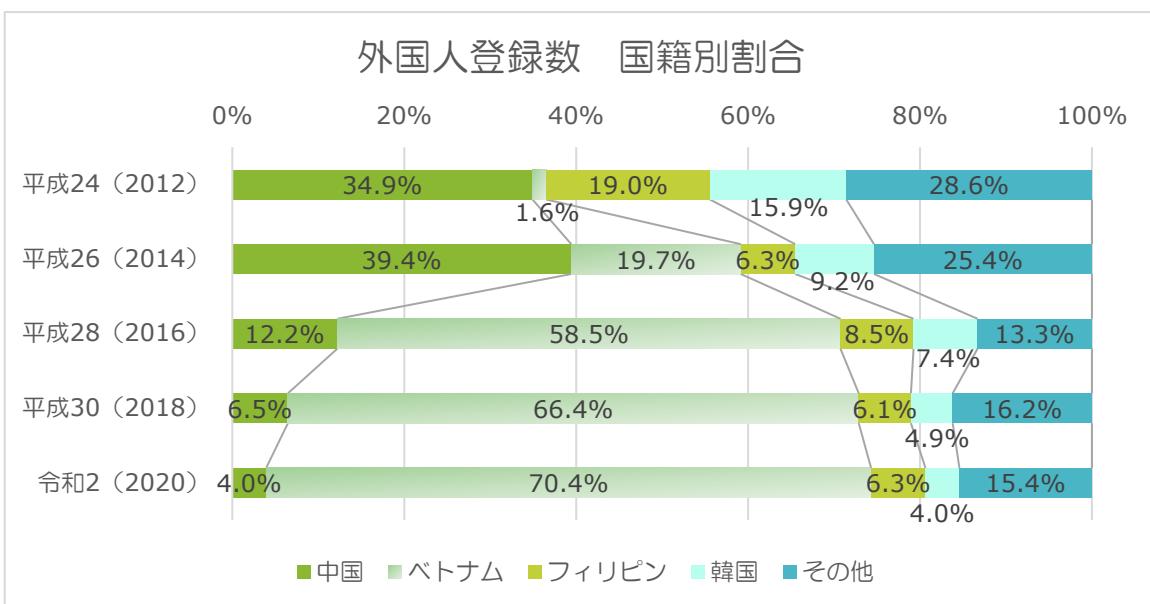
なお、市の人口は近年減少の一途をたどっており、震災前に40,056人だった人口は32,176人へと、この10年で7,880人が減少しています。



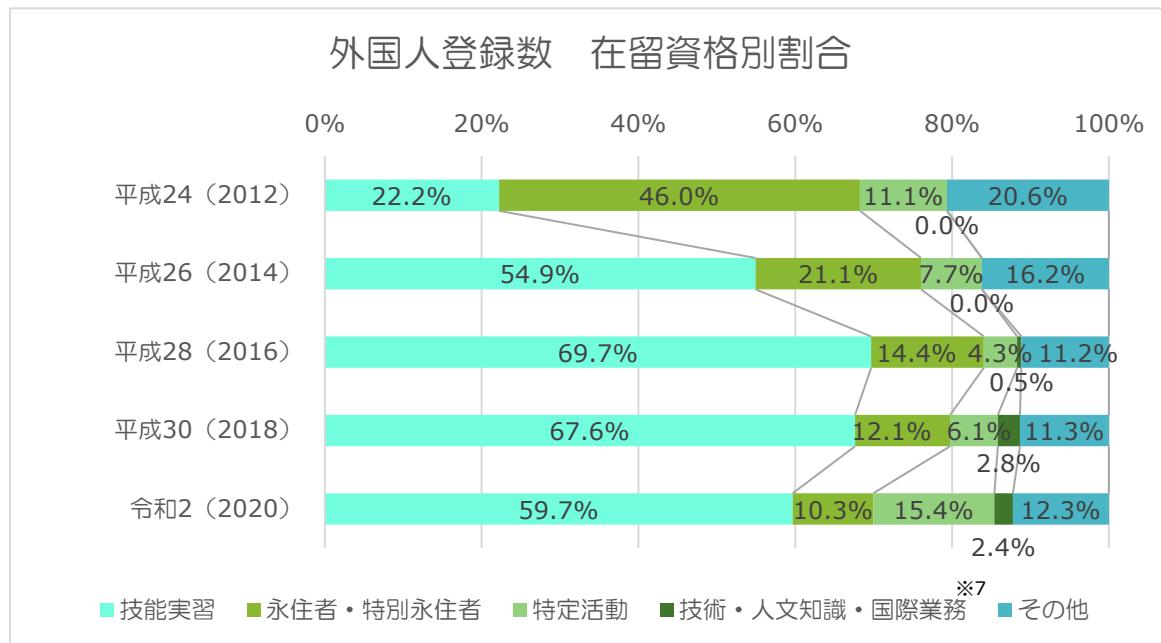
なお、各地区生活応援センターの在留外国人の数は次のとおりです。



次に、本市の令和2（2020）年12月末現在の在留外国人を国籍別にみると、ベトナムの70.4%が最も多く、次いでフィリピンの6.3%、中国及び韓国4.0%の順となっています。時系列でみると近年では中国の割合が減少し、ベトナムが大きく増加しています。



同様に在留資格別にみると、技能実習<sup>※3</sup>59.7%、特定活動<sup>※4</sup>15.4%、永住者<sup>※5</sup>・特別永住者<sup>※6</sup>10.3%の順となっています。特に技能実習の割合については、全国値の14.0%（法務省「在留外国人統計」（2019年12月末））と比較しても、非常に高くなっています。





### 語句解説※3 【技能実習】

開発途上地域等の経済発展を担う「人づくり」に協力するという趣旨のもと、開発途上国等の外国人を日本で一定期間（最長5年間）に限り受け入れて、実習を通じて技能を移転する制度。農業、漁業、建設、機械など様々な職種で受け入れています。雇用関係の下、労働関係法令等が適用されていて、令和元（2019）年度末現在で全国に約41万人在留しています。



### 語句解説※4 【特定活動】

インターンシップ、アマチュアスポーツ選手及びその家族、特定の研究活動や情報処理活動、日本の大学卒業者及びその家族等。新型コロナウイルス感染拡大により帰国することができない技能実習の有資格者も当該資格に変更することができます。



### 語句解説※5 【永住者】

法務大臣が永住を許可した者で、在留活動・在留期間のいずれも制限はありません。永住許可の要件は、①素行が善良であること、②独立生計を営むに足りる資産又は技能を有すること、③その者の永住が日本国の利益に合致すると認められることとされています。原則として、引き続き10年以上在留していることが必要とされます。



### 語句解説※6 【特別永住者】

「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」（1991年11月施行）により定められた在留の資格、又は当該資格を有する者。終戦前から日本に居住しており、サンフランシスコ平和条約（1952年）の発効によって日本国籍を失った後も引き続き日本に在留している朝鮮半島・台湾出身者とその子孫を対象にしており、在留期間や在留資格に制限はありません。



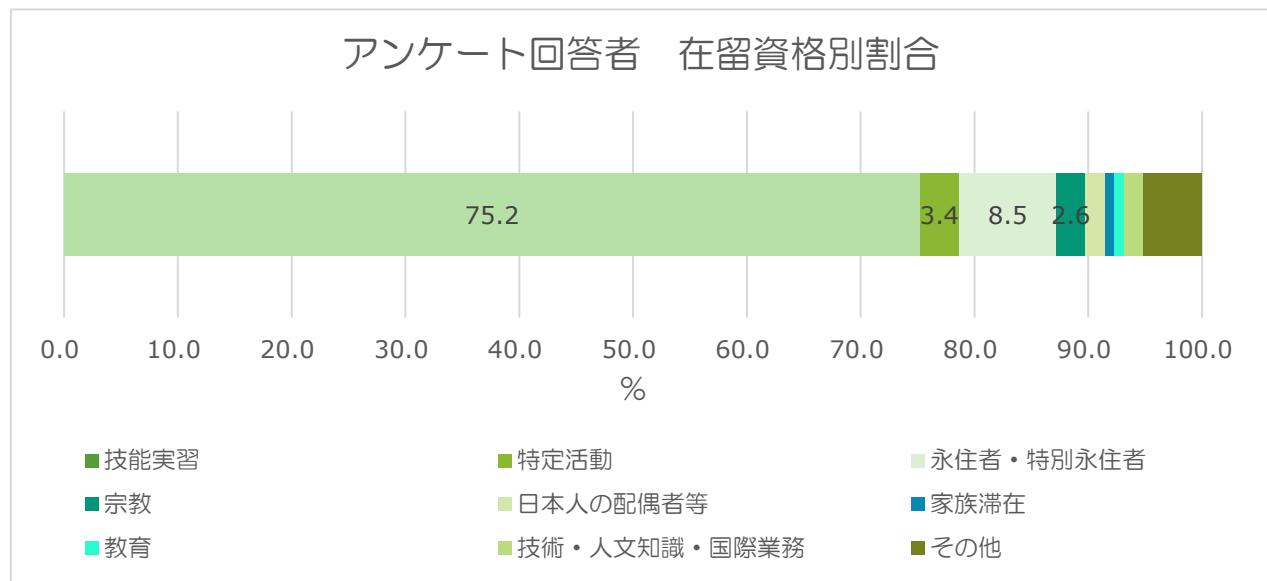
### 語句解説※7 【技術・人文知識・国際業務】

自然科学、法律学、経済学、社会学やその他の人文科学の技術・知識を必要とする業務または、外国の文化に基づく思考若しくは感受性を必要とする業務に従事する活動。例えば、機械工学等の技術者、通訳、デザイナー、企業の語学教師など。国際交流員もこの資格で活動しています。

## 2 現状と課題

当プランを策定するにあたり、令和2（2020）年10月に、当市に住んでいる18歳以上の在留外国人に対して、釜石市の住みやすさなどについてのアンケートを実施し、対象者232名のうち125名（54%）から回答を得ました。

回答者を在留資格別にみると、新型コロナウイルスの影響で技能実習が特定活動に移行していることを加味して両者を合わせて算出した割合（78.6%）が、前述の外国人登録者の両者を合わせた割合（75.1%）と近似しており、アンケートの回答が市内の在留外国人の在留資格の構成に近いことが分かります。



結果のうち多かった回答を総合すると、例として次のような姿が見えてきます。

私はアジア人で、技能実習生として日本にきました。日本にきて1～3年になります。



・市内の東部地区にともだち3人くらいと一緒に住んでいます。

・お休みの日は自転車や徒歩、バスで出かけます。

・普段、日本語には少し困っていて、防災行政無線を聞くときや市役所から手紙が来たときは大変です。

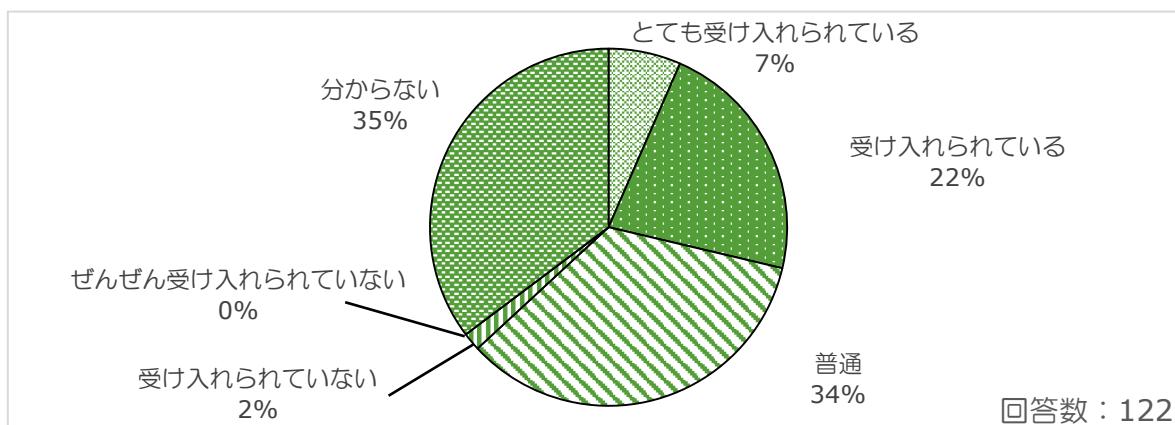
・病気やケガをしたときに病院にいく時には言葉が通じるか不安ですが、困ったときはともだちや家族、職場の人に相談できます。

・市役所に外国人相談窓口があることは知りませんでした。

・釜石市ではどんな災害があるか知っていますが、いざという時はどこに逃げたらいいか自信はありません。

・釜石は自然が豊かで特に海がきれいだし、街なかはゴミがきれいに片付けられているし、概ね住みやすいと思います。

現在、当市の在留外国人は253名です。全人口32,176人の0.8%と、決して多数ではありませんが、地域に暮らす「釜石市民」として今まで声をあげる機会があまりなく、市政や地域に意見が反映される機会がありませんでした。今回のアンケートの結果をみても、「釜石市民としてとても受け入れられている」または「釜石市民として受け入れられている」と感じる人の割合が合わせて29%と低くなっています。自らを釜石市民と感じられていないことがうかがえます。



在留外国人のみなさんが当市で「釜石市民」として安心して暮らすことができるよう、アンケートの結果及びこれまでの市の取り組みを通して「外国人市民等の暮らし」「人材育成」「国際理解」の3つのポイントからみえる現状と課題は次のとおりです。

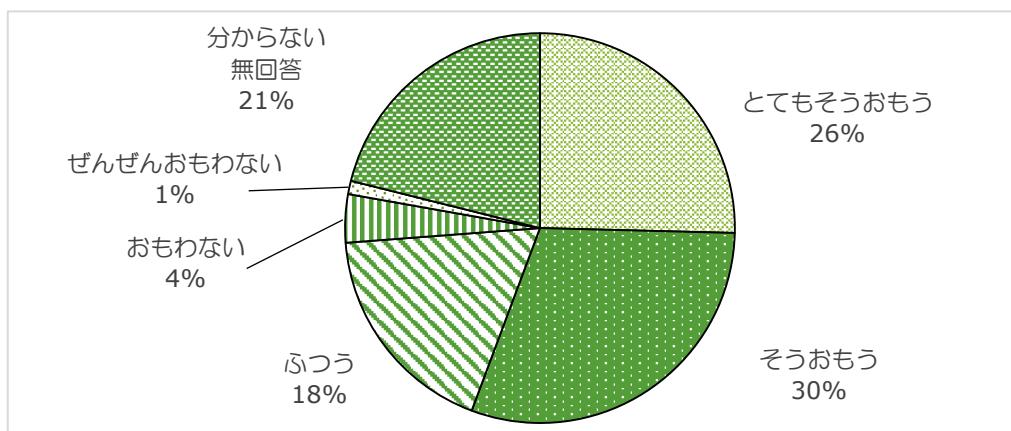
## (1) 外国人市民等の暮らしについて

### 現状

アンケートの中で、釜石での生活について自然環境、住環境、市民サービス、医療などの16項目について、満足と感じているか5段階で評価してもらいました。結果は下表のとおりとなり、総体的に釜石での生活には満足しているとみられますか、項目によっては満足度が低いものも見られます。

質問	回答	とてもそうおもう	そうおもう	ふつう	おもわない	ぜんぜんおもわない	分からぬ 無回答
1 自然がきれいだ		52	48	22	0	0	3
2 犯罪が少ない		33	35	31	2	0	24
3 学校や仕事に行きやすい		38	39	36	2	0	10
4 鉄道やバスが便利だ		37	38	22	14	0	14
5 家の周りが静か		49	40	31	1	0	4
6 近所の人がやさしい		31	47	21	2	2	22
7 買い物が便利だ		47	42	27	1	1	7
8 病院があるので安心		39	58	14	4	0	10
9 子育てで相談できる場所がある		11	30	9	9	1	65
10 ゴミがきれいに集められている		48	49	14	0	0	14
11 体育館やプールが使いやすい		8	22	18	10	5	62
12 TETTOや図書館が使いやすい		7	42	17	7	2	50
13 無料のWi-Fiがあるので便利		45	35	19	1	5	20
14 市役所からのお知らせが分かりやすい		18	20	37	18	4	28
15 健康診断や予防接種があるので安心		37	43	22	3	1	19
16 介護や障がい者への支援が分かりやすい		8	18	22	6	1	70
合計		508(26%)	606(30%)	362(18%)	80(4%)	22(1%)	422(21%)
					2000		

(回答数)

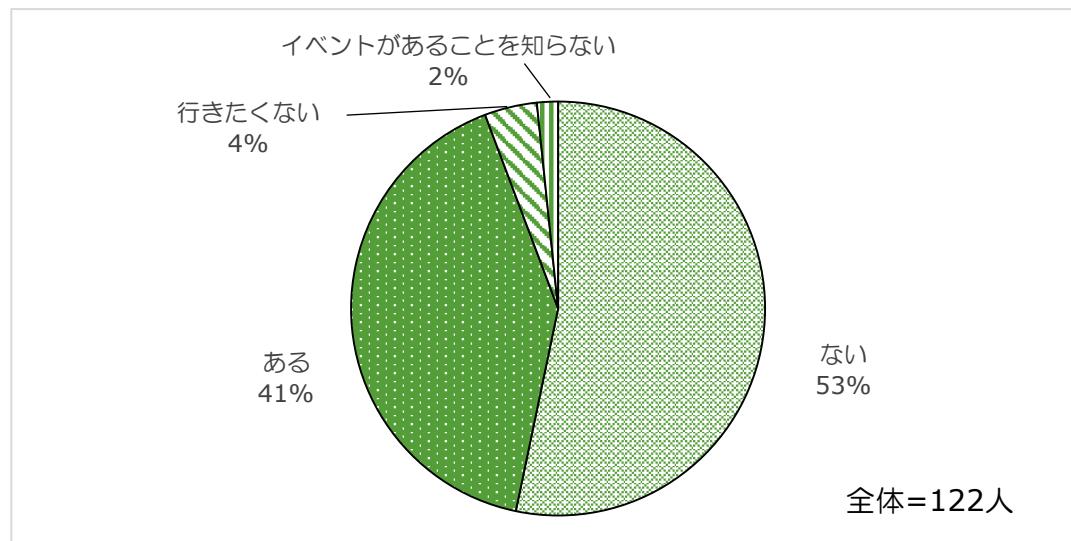


## 課題

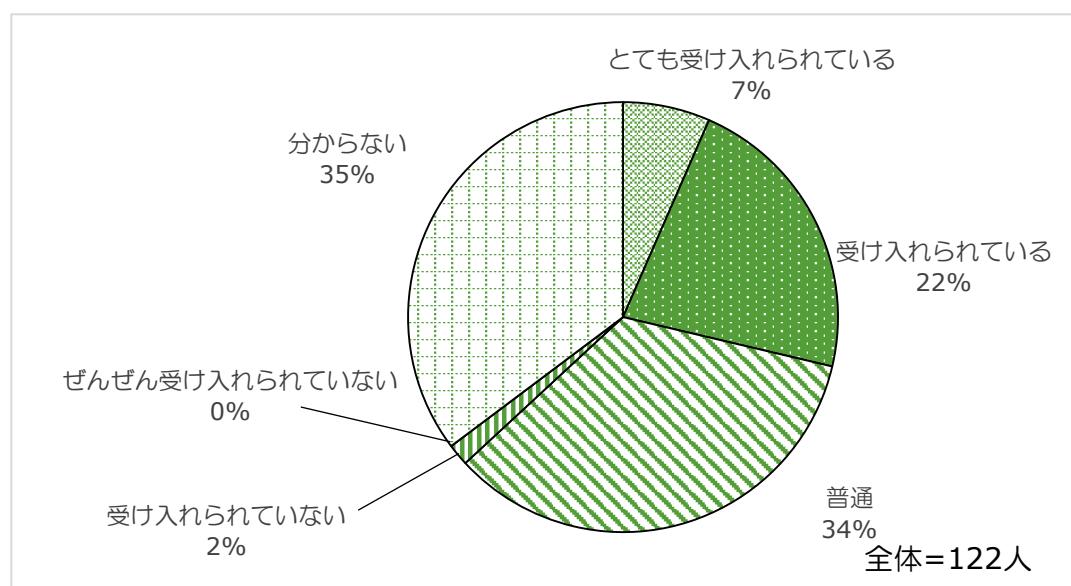
### ア. 外国人市民等が地域とつながっていると感じることができていない

同アンケートの結果ではお祭りやゴミ拾いなど地域の行事への参加経験のない在住外国人が 50% を超えており、地域に受け入れられていると感じている在住外国人は 29% にとどまっています。

問) 町内会などの地域のイベントに参加したことがありますか？



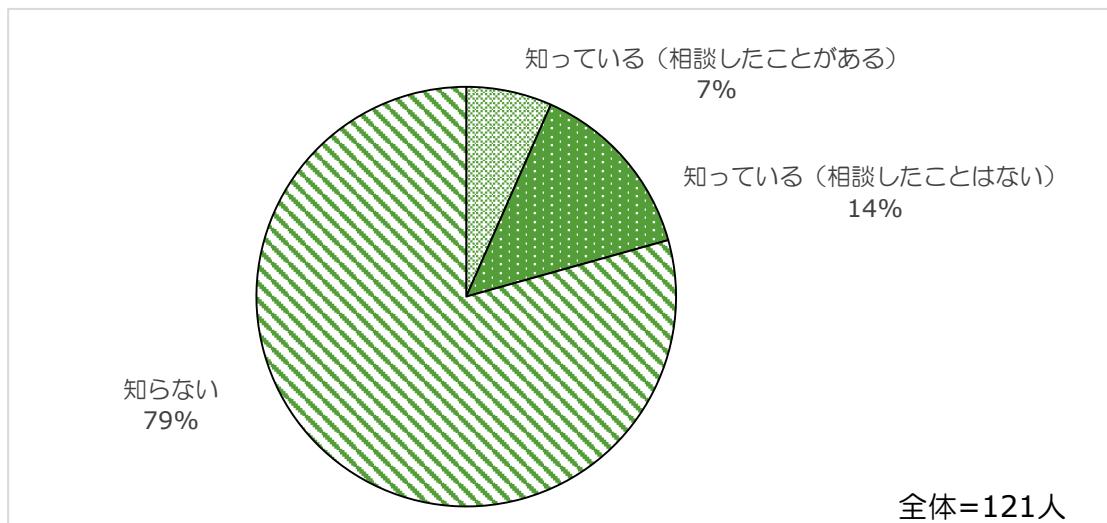
問) あなたは釜石市の市民として、まわりから受け入れられていると感じますか？



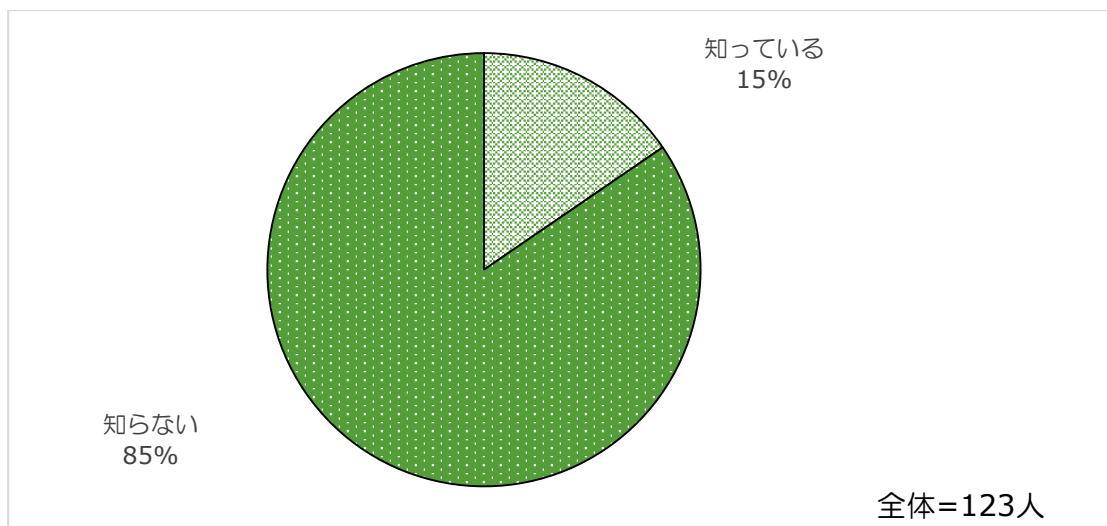
## イ. 日常の困りごとを相談できる選択肢が少ない

市内 8 箇所にある生活応援センターの認知度、及び国際交流課に設置している外国人相談窓口についての認知度がそれぞれ 21%、15% と低くなっています。日常生活において困りごとを相談できる選択肢が少ないとがうかがえます。

問) 地域にある生活応援センターでもいろいろなことを相談できます。生活応援センターを知っていますか？

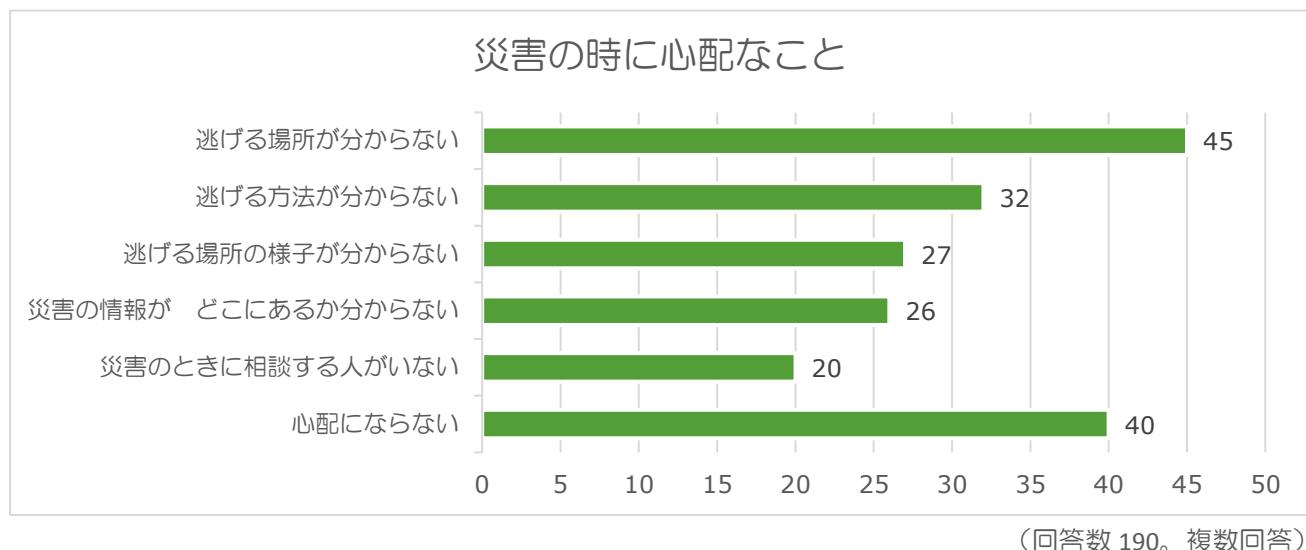


問) 市役所にも相談できるところがあります。外国人相談窓口といいます。知っていますか？



## ウ. 災害発生時に安心して行動できない

「避難場所」と「避難所」の違いについて理解している割合が低く、災害の時に『逃げる場所が分からぬ』という不安を訴える回答数が、『心配にならない』と答えた数よりも多くなりました。また、『逃げる方法が分からぬ』『逃げる場所の様子が分からぬ』等、災害に関する情報について、外国人市民等に伝わっていないため、外国人市民等が災害時に安心して行動できない現状があります。



## (2) 人材育成について

### 現状

市では外国人へのおもてなしの一つとして市民が外国語のスキルアップを図り、もって外国人とコミュニケーションをとれる人材を育成するため、各種外国語教室を開催していますが、外国人との直接交流による語学実践の機会が少なく、自己のスキルアップにとどまっています。

また、海外で見聞を広めそこでの交流を通じ国際感覚を身につけ、世界で活躍できる次世代のリーダー育成を目的に海外体験学習事業を実施していますが、参加者の事後のネットワークが構築されておらず、その後の実態の把握やイベント等への参加呼びかけができていません。

異文化への理解とコミュニケーション能力を備え、国際化に貢献できるグローバル人材を育成するスキームが十分とはいえない状況です。

## 課題

### ア. 市民が外国語を学ぶ機会が少ない

現在、初級英会話、フランス語、スペイン語講座を実施していますが、いずれの講座も開催場所及び回数などが限られており、市が国際化をすすめようとする中で市民の学びの機会が決して多いとはいえない。

### イ. 海外で貴重な経験をした生徒が、その経験を生かす場がない

市では海外派遣事業を行っていますが、それらの事業に参加して貴重な経験をした生徒たちが帰国した後、その経験を後輩たちに伝えたり、海外体験で培った語学力やコミュニケーション能力を生かす場が不足しています。

### ウ. グローバル人材の育成スキームが不十分

市の国際化に貢献できる人材となるために有用な外国語スキル、コミュニケーションスキルや異文化への理解などを向上させる機会を提供するスキームが不十分です。

## (3) 国際理解について

### 現状

市では、地域の国際化を推進するために 2016 年から国際交流員（CIR）を配置し、住民に対する外国語講座や、異文化理解のための交流イベント等を通して、国際理解の普及啓発を図っています。また、市内小中学校においては、外国語指導助手（ALT）が日本人外国語担当教員の助手として外国語授業に携わることにより、児童生徒が直接外国人と触れ合うことで、国際感覚を身近に学ぶことができています。

グローバル化が進むなか、その必要性が高まっている国際交流ですが、その大切さや具体的にどのようなメリットがあるか等について、市が積極的に説明してこなかったため国際理解について市民に浸透していない状況です。

## 課題

### ア. 国際理解の普及啓発のための市民への説明が少ない

教育委員会による小中学校での国際理解講座や、各公民館主催の国際理解のための事業などを行っていますが、市が市民に対して国際理解について積極的な普及啓発活動を行う場が少なくなっています。

### イ. 外国人に対して漠然とした不安を抱いてしまう

アンケートの結果、在住外国人は概ね釜石での生活に満足しているようですが、母国ではない日本で生活することの不安が少なからずあると考えられます。その不安を払拭するためには、在住外国人が抱いている不安や困りごとを周りの日本人が気づいて理解することが必要ですが、日本人の中には外国人に対して漠然と不安を抱いてしまう人が少なくありません。

### ウ. 外国の文化に触れる機会が少ない

市では中学生の海外派遣事業や国際理解推進のため各事業を行っていますが、外国人の往来が盛んな都市部と比較すると、市内に住む外国人の数も少なく、日常的に外国人と触れ合う機会が多いとは言えません。それに伴い、両国の文化を互いに学び合う機会が不足しています。

## 『世界とつながる KAMAISHI』

釜石市は昭和 12（1937）年に誕生し、令和 2（2020）年で市制施行 83 年を迎えました。その間、基幹産業である鉄鋼業を擁し、釜石漁港を中心に漁業が栄え、また日本選手権 7 連覇の偉業を遂げた新日鉄釜石ラグビー部とその後平成 13 年に地域共生型クラブとして生まれ変わった釜石シーウェイブス R F C が本拠地を置く「鉄と魚とラグビーのまち」として歩みを進めてきました。釜石を象徴するこの 3 つのキーワードのそれぞれには、海外との関わりが欠かせません。



鉄：世界遺産『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』の構成資産の一つとなっている橋野鉄鉱山に代表される釜石の製鉄は海外の技術を参考に発達しました。また釜石で造られた鉄は海外へも輸出され、それとともに整備された釜石港は世界の貨物が出入りする国際港湾として現在も取扱量を増加させています。

魚：釜石の重要な産業のひとつである水産加工業では、近年海外から外国人技能実習生を多く受け入れており、釜石市在住の外国人のうち 70% を占めます。



ラグビー：平成 30（2018）年に完成した釜石鵜住居復興スタジアムは自然と調和するスタジアムとして海外でも知られており、国際試合も開催しています。令和元（2019）年に開催したラグビーワールドカップ 2019™日本大会岩手・釜石開催ではスタジアム及びファンゾーンに海外から多くのゲストを受け入れました。また、当市に拠点を置く釜石シーウェイブス R F C では外国人選手も多く活躍しています。



このように、当市にとって世界とのつながりは欠かすことができません。今後もそのつながりを深化させ、継続していけるように、多様な文化を受け入れ、互いの違いを認め合うことができる、世界とつながるまちとなれるよう「世界とつながる KAMAISHI」を目指します。

この将来像を実現するためには、釜石市は次のようなまちでありたいと考え、その具現のため4つの施策の方向により取り組みを進めていきます。

#### ◆ 海外から訪れた人をやさしく受け入れるまち

海外から旅行やスポーツ観戦などで訪れた人たちが、釜石市での滞在中に困らないよう、市民がおもてなしの気持ちを持って接することができ、様々な施設・商店の案内などが工夫されているまち

#### ◆ 世界とつながる人材が育つまち

釜石港の発展や交通手段の発達、IT技術の進歩によってますます世界が近くなる中で、世界とつながる人材を育てる、発見や学びの機会を創出するまち

#### ◆ 違いを認め合える市民が暮らすまち

様々な背景をもちながら生活する在住外国人等と日本人が、それぞれの違いを認め合い、助け合いながら、地域社会の構成員として共に生きていけるまち

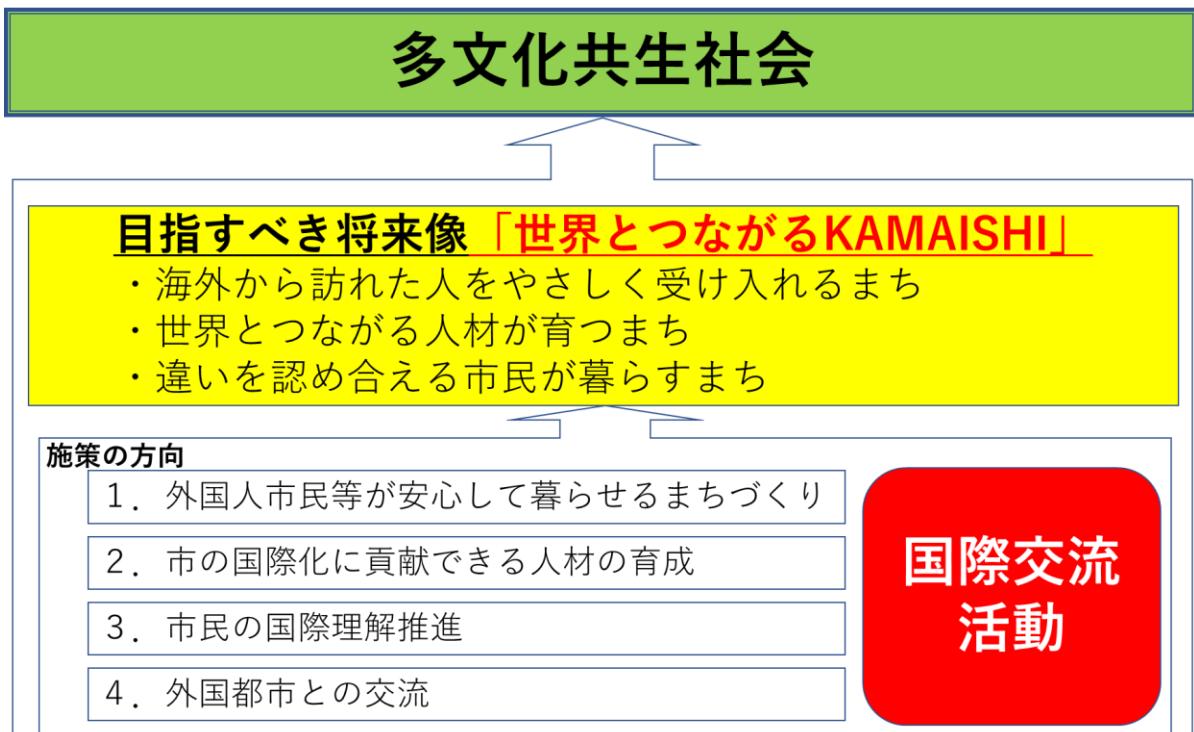
施策の方向1 外国人市民等が安心して暮らせるまちづくり

施策の方向2 市の国際化に貢献できる人材の育成

施策の方向3 市民の国際理解推進

施策の方向4 外国都市との交流

\* 「多文化共生社会」と「国際交流活動」の関係イメージ図



## V.当市における多文化共生推進のための施策の方向

### 1 外国人市民等が安心して暮らせるまちづくり

#### 目指すべき姿

地域コミュニティの中で外国人市民等が安心して暮らせるように、コミュニティへの参画支援が行われており、各種生活情報の多言語での情報提供が行われている。また、生活の困りごとなどを相談できる窓口が充実している。

#### 取組み① 外国人相談窓口の充実

令和2（2020）年度に国際交流課（シープラザ釜石2階）内に設置した外国人相談窓口について、体制の充実を図ります。相談内容は文化・生活習慣・就業・就学・住居・医療機関受診など多岐に渡ることから、それらの相談を解決に導くことができるよう関係機関との連携を図ります。さらに、相談者に寄り沿って対応ができるよう国際交流員を活用します。また、在留外国人だけでなく、外国の文化的背景を持つ人、そのような人たちに接する日本人などが困ったときに気軽に相談できる場所となるよう周知を図るとともに、訪れやすい雰囲気づくりにも努めます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
実施					

#### 【アクション】

- ・外国人相談窓口の認知度の向上のための広報
- ・在住外国人等や関係者が気軽に訪れることができる雰囲気づくり
- ・相談室（個室）の確保【新規】

など

---

## 取組み② 生活情報の多言語での情報提供

これまで市内飲食店のメニューや観光施設の案内看板、バス停の表示などについて英語表記化及びその助言を行ってきました。また最近では、新型コロナウイルスに関する情報などについて、ホームページでやさしい日本語と英語での提供を行っています。

しかしながら、日常生活において必要な情報は多岐に渡るため、各種手続きの手順や方法、ゴミ出しなどの情報や、市から個人宛の手続きの書類などについての多言語での説明など、在住外国人等に配慮した情報提供を行います。また、通訳が必要な場面においては、翻訳機や遠隔通訳などを含めた様々なツールを活用します。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	→		

### 【アクション】

- ・ゴミ出しのルール及び収集日カレンダー等の生活情報の多言語化【新規】
- ・市が発出する通知文書の多言語化【新規】
- ・感染症に関する多言語による情報提供や相談対応

など

---

## 取組み③ 地域との関係構築のための支援

地域とのつながりが希薄であることが理由で日常生活に不安を覚えることのないよう、外国人市民等が、居住する地区の町内会や民生・児童委員との関係を築くための支援を行います。また外国人市民等と最寄りの生活応援センターとの関係構築の支援も行います。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	試行	実施	→

## 【アクション】

- ・外国人市民等と町内会や民生・児童委員、地区生活応援センターとの関係構築支援

## 【新規】

- ・在住外国人交流会の開催

- ・外国人市民等を対象とした日本語講座の充実

など

---

## 取組み④ 外国人に配慮した防災情報の発信

平成23（2011）年に発生した東日本大震災で津波の大きな被害を経験した釜石市において、防潮堤や避難路などハード面での防災対策は着実に前進しております。災害が発生した場合には、そのような環境を外国人市民等が最大限活用できるように配慮した各種情報の発信をすることで、日本人と同等の避難行動や避難生活を送ることができるよう支援します。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施			

## 【アクション】

- ・避難場所や避難所における説明などについて指さしシートなどを活用した多言語対応

## 【新規】

- ・日本語表現の平易化や多言語化など、外国人に配慮した情報の伝達

- ・避難場所や避難所での外国人市民等への配慮

など

---

## 取組み⑤ 外国籍の子ども（幼児・児童・生徒）の受入体制構築の推進

外国籍の子どもたちも、日本人の子どもと同等の教育を受け、アイデンティティー<sup>※8</sup>を保ちながらのびのびと成長していくように学校や地域で守り育てていくことが大切

です。外国にルーツを持つ子どもたちやその親が学校や地域の中で孤立することのないよう、支援します。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	調査	計画	実施		

【アクション】 

- ・外国にルーツをもつ児童生徒への教育的支援の充実、学校の理解促進【新規】
- ・外国にルーツをもつ親に対する、子どもの入園及び就学支援【新規】
- ・外国人市民等の子育て世代が利用する施設での多言語対応支援 など



語句解説※8 【アイデンティティー】

自己同一性。自分が自分であること。自分は何者であるか、自分がほかならぬ自分であるその核心は何か、という自己定義のこと。

## 2 市の国際化に貢献できる人材の育成

### 目指すべき姿

海外体験学習機会が創出され、異文化交流を通じて国際感覚が醸成され、グローバルな人材が育成されている。その人材がキーパーソンとなり、当市の多文化共生の地域づくりのリーダーとして活躍している。

#### 取組み① 海外体験学習事業の実施と、経験を生かせる場の創出

市では平成 26（2014）年度から、国内の姉妹都市である愛知県東海市とともに、オーストラリアのマセドンレンジズ市へ中学生を派遣する事業を実施しており（令和元年度及び令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により派遣中止）、5 年間で 38 名の中学生が海外での体験学習を行いました。また、ニュージーランドにも平成 29 年度までに累計で 57 名を、その他にもアメリカのハワイ州にある太平洋津波博物館へ中学生を派遣する事業などを実施しています。市では、このような取り組みを実施しながら、未来を担う子どもたちの相互訪問による交流の機会創出を継続していくとともに、海外での貴重な体験を得た生徒たちの横のつながりを大切にし、その経験を生徒自身の将来のために、またよりよい釜石を作るために生かしていく場を創ります。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	→		

#### 【アクション】

- ・派遣後交流の実施、派遣経験者のネットワーク構築【新規】
- ・派遣経験者に対して国際交流イベント等の参加を促し、世界とのつながりを継続して実感できる機会の提供など

---

## 取組み② ボランティアの育成と活用

ラグビーワールドカップ 2019™日本大会岩手・釜石開催で構築された、公式ボランティアや市独自ボランティアの態勢を生かして、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会や今後市内で開催されるスポーツ大会などにおいて、世界中の人々が当市を訪れた際におもてなしの心をもった人材がホストとして活動できる態勢を継続します。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施			

### 【アクション】

- ・ボランティア経験者に対して、外国人が集まる大会の情報発信を行うなど、活躍の場の継続的な提供 【新規】
- ・新たにボランティアとして活動したい市民が学びの機会を得られる場の創設 【新規】

など

---

## 取組み③ ラグビーをきっかけに世界に通じる人材の育成

世界大会に出場した経験をもつプロ選手からの指導の機会、ホストタウン事業でのラグビー交流などで貴重な経験を積んだ子どもたちが、ラグビー競技だけでなく様々な場面において世界に通じる人材へと成長できるよう、またラグビーの経験のない子どもたちがラグビーに触れることのできる機会を増やせるように務めます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施			

## 【アクション】

- ・海外小学生とラグビーで交流することで国際交流の楽しさを体験できる機会の提供
- ・海外のラグビー強豪校との交流により国際感覚を養い、技術の向上も図ることができる機会の確保
- ・世界に通じる選手からのラグビー指導によるスキルアップの機会の提供

など

---

## 取組み④ 英会話等外国語講座の開催と充実

現在、英語、フランス語、スペイン語の講座を実施していますが、開催場所及び回数には限りがあります。当市が国際化していく中で、さらに多くの市民が外国語を学ぶ機会を得られるよう、講座の充実を図ります。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
					実施

## 【アクション】

- ・英語、フランス語、スペイン語以外の外国語講座の開催【新規】
- ・外国語講座の講師を務めることができる人材の発掘【新規】

など

---

## 取組み⑤ 市職員の外国語コミュニケーション能力の向上

市内には現在 253 名の外国人が暮らしています。今後、技能実習生などが増加する可能性もあり、市の窓口での手続きの機会が増えることや、各地区生活応援センターなど課にて日本語が苦手な在留外国人の対応をする機会が増加することも考えられます。市で設置している外国人相談窓口の担当職員のみならず、全ての職員が外国語でのコミュニケーションを行える人材となることを目指します。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	→		

【アクション】

- ・職員向け外国語講座の実施【新規】
- ・職員向け翻訳機の貸出し及び翻訳機や翻訳アプリの操作説明会の開催【新規】
- ・外国人相談窓口の積極的な活用

など

## 目指すべき姿

日本人市民が外国人市民等と共生していくために、市民や企業を対象に多文化共生の地域づくりについて啓発が行われている。

また、地域において学校、保育機関、公民館等の施設も活用し、釜石市国際交流協会等と連携しながら外国人の人権尊重の啓発や、地域に居住する外国人住民の言語を学ぶ機会が提供されるなど、日本人市民と外国人市民等が相互に交流し、多文化共生に関する理解を深めている。

## 取組み① 多文化共生の地域づくりの啓発

同じ地域で共に暮らす日本人市民と外国人市民等が互いを理解するための啓発活動を行います。市民対象の国際理解講座や、外国人市民等対象の日本語講座、各地区生活応援センターでの公民館事業としての英会話や国際理解の講座など、現在実施している各種講座の充実を図ります。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	→		

【アクション】 

- ・海外生活、留学経験者による国際理解講座の開催【新規】
- ・教育委員会と連携した国際理解教室
- ・日本人市民と外国人市民等が交流できる機会の創出【新規】 など

---

## 取組み② 国際交流員（CIR）の活用

市で任用している国際交流員はこれまで市民向け英会話や、市内小売店の従業員を対象としたおもてなし英会話教室などの活動、また市内各所の案内板の英訳や、海外からの来客時の通訳などを行ってきました。今後はこれらの活動に加えて、外国人市民等と日本人市民が互いの理解を深められるような交流イベントの実施なども検討していきます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	実施				

### 【アクション】

- ・外国人とのふれあいを重視した、保育園や子ども園での子ども向け英会話教室
- ・CIR のネットワークを活用した、外国人市民等の交流イベント
- ・市民向け英会話教室の充実化

など

---

## 取組み③ 釜石市国際交流協会との連携

平成 18（2006）年に発足した釜石市国際交流協会は、市民レベルでの国際交流を行う民間団体です。これまで市内でのイングリッシュキャンプやワンワールドフェスタなどのイベントを実施したほか、釜石よいさに在住外国人と一緒に参加するなど、草の根での国際交流を行っており、市も各種イベントを共催するなど、今後も連携しながら市民の国際理解を推進していきます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	実施				

### 【アクション】

- ・釜石市国際交流協会事務局への協力
- ・各種イベントの共催

など

### 目標すべき姿

世界とつながる三陸の拠点都市として外国都市と継続した交流が行われ、国内外に向けて釜石が発信されている。また、交流人口の増大に伴い、市民の国際意識の向上が図られ海外から訪れた人をやさしく受け入れるまち、世界とつながる人材が育つまち、違いを認め合える市民が暮らすまちとして「世界とつながるKAMAISHI」が実現されている。

#### 取組み① 姉妹都市【ディーニュ・レ・バン市】との交流

フランスのディーニュ・レ・バン市とは、平成4（1992）年に開催された三陸海の博覧会を機にアンモナイトの壁のレプリカを寄贈いただいたことをきっかけに、平成6（1994）年に姉妹都市提携を結びました。それ以降、小中学生の絵画交流を数年行ったほかは、しばらくは目立った交流を行っておりませんでしたが、平成23（2011）年に発生した東日本大震災への支援をきっかけに交流が再開しています。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	計画	実施	

#### 【アクション】

- ・ラグビーを通じた交流の推進【新規】
- ・市民への啓発活動

など

#### 取組み② 復興「ありがとう」ホストタウン【オーストラリア】との交流

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、当市は平成29（2017）年にオーストラリアを相手国として、復興「ありがとう」ホストタウンに登録されています。その取り組みの中で、青少年を中心とした交流や、釜石シーウェイブス

RFCに在籍経験があり、元ラグビーオーストラリア代表のスコット・ファーディー選手との交流などを行ってきました。このような取り組みを引き続き実施することで、東京2020大会終了後もオーストラリアとの交流を継続し、友好関係を築いていきます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施			

### 【アクション】

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ラグビー競技オーストラリア代表選手との交流機会の創出【新規】
- ・青少年を中心とした国際交流の推進
- ・在日オーストラリア大使館及び在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所との連携

など

---

### 取組み③ ラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催4か国 【フィジー、ウルグアイ、ナミビア、カナダ】との交流

令和元（2019）年に開催したラグビーワールドカップ2019に出場し、釜石鵜住居復興スタジアムで試合を行ったフィジー、ウルグアイ、試合を行う予定だったものの台風の影響で試合を行うことができなかったナミビア、カナダの4か国とは事前キャンプ、試合前後の交流事業、レセプション及び試合などで様々な交流を行いました。

また、カナダチームに関しては、試合中止の当日に、ボランティアとして被災した家の家財道具の搬出や道路に堆積した土砂の撤去を行うなどの災害支援を行っていただきました。

今後も、このような中で培った交流の芽を絶やすことのないよう、継続していきます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	計画	実施	→		

#### 【アクション】

- ・各国在日大使館との情報交換
- ・様々な関係機関との連携
- ・ラグビーに限定しない様々な交流機会の創出
- など

---

#### 取組み④ 【オランダ】との交流

第2次世界大戦中に日本軍の捕虜となり市内の捕虜収容所にオランダ人が収容された史実をきっかけに、当市市民とその関係者との間で交流がありました。その後この交流を機に平成18（2006）年に釜石市国際交流協会が発足しました。

また、同国からは東日本大震災の際、多くの支援をいただいたり、ミッフィーの作者であるディック・ブルーナ氏の協力で市内に国内唯一の常設のミッフィーカフェがオープンするなどの交流が続いており、今後も継続していきます。

取組み期間	R3/2021	R4/2022	R5/2023	R6/2024	R7/2025
	→				

#### 【アクション】

- ・釜石市国際交流協会と連携した交流活動の促進
- ・関係機関との情報交換
- など

## VII. 推進体制

文化スポーツ部国際交流課が、国及び県の動向や社会情勢の変化等を踏まえ、庁内関係部局と横断的な調整を行うとともに、庁内に連絡会議を設置するほか、釜石市国際交流協会など関係機関とも連携・協力し、本プランを推進していきます。

## 資料

### 多文化共生に関する在留外国人意識調査結果の概要

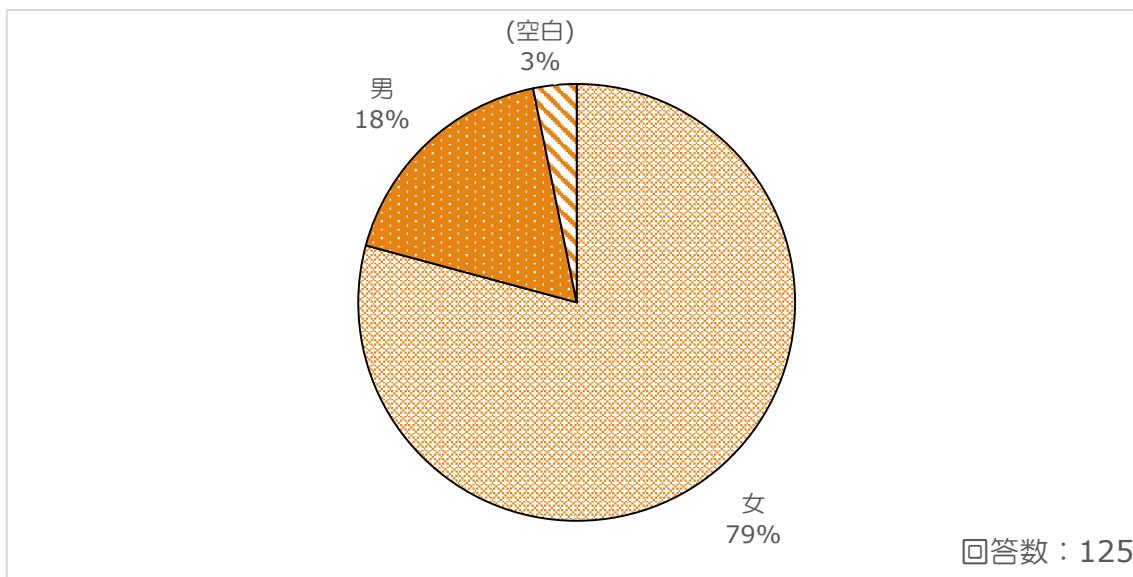
この調査結果は、市内の在留外国人に対して実施したアンケート調査を集計した結果の概要です。

調査設計	調査地域	釜石市内全域
	調査対象	令和2（2020）年9月1日現在、釜石市内に住民登録をしている18歳以上の在留外国人
	標本数	232
	調査方法	調査用紙郵送及び手交
	調査言語	日本語、英語
	調査時期	令和2（2020）年10月15日（木）～10月30日（金）
	調査主体	釜石市文化スポーツ部国際交流課
回収結果	有効回答数	125
	有効回収率	53.8%

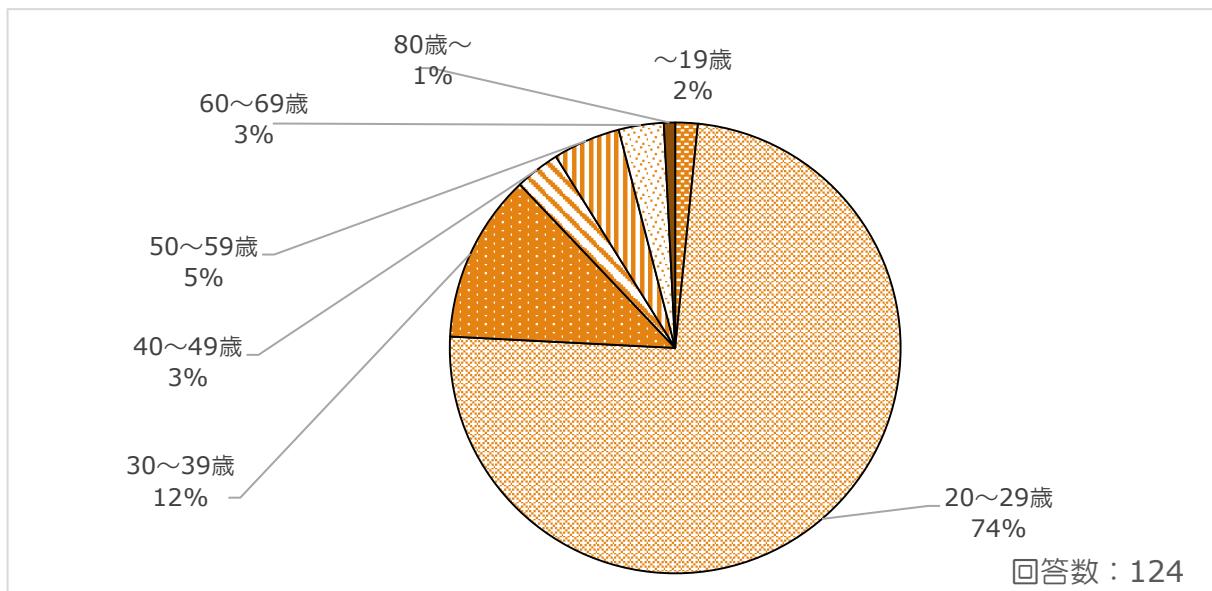
#### 【基本情報】

1. あなたのことを教えてください。

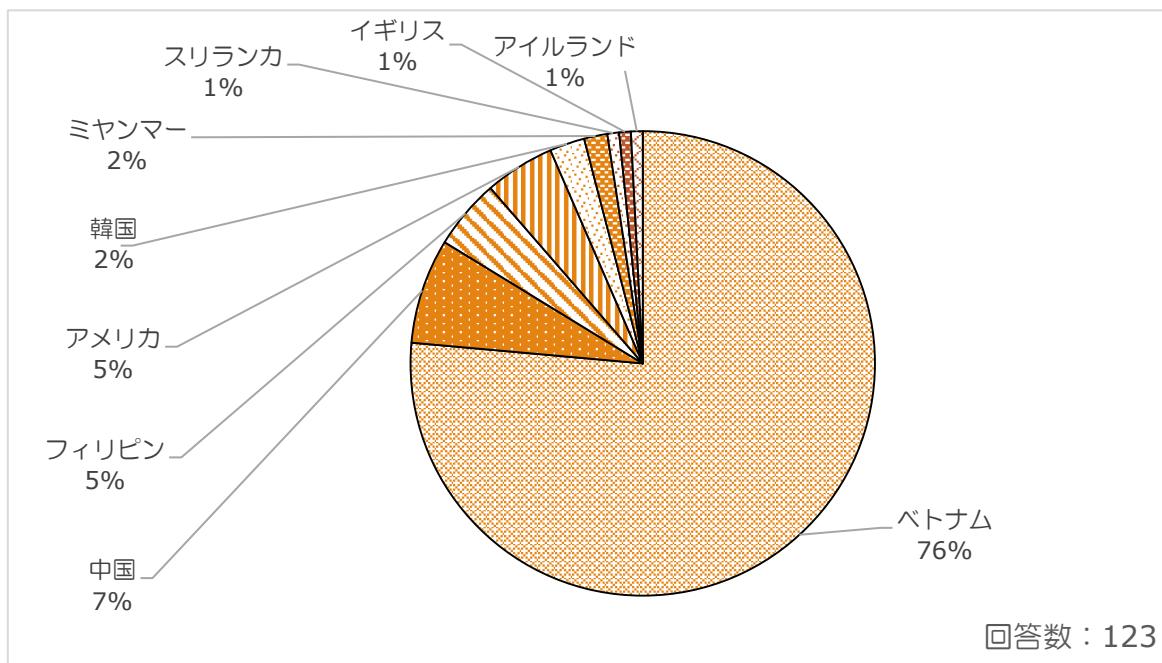
##### （1）性別



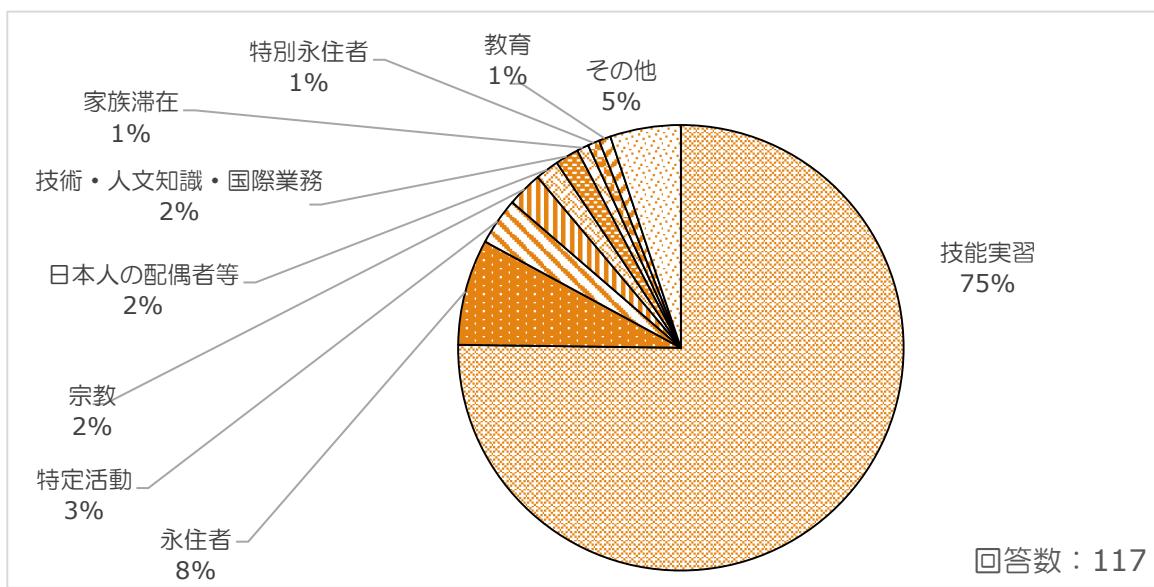
## (2) 年齢



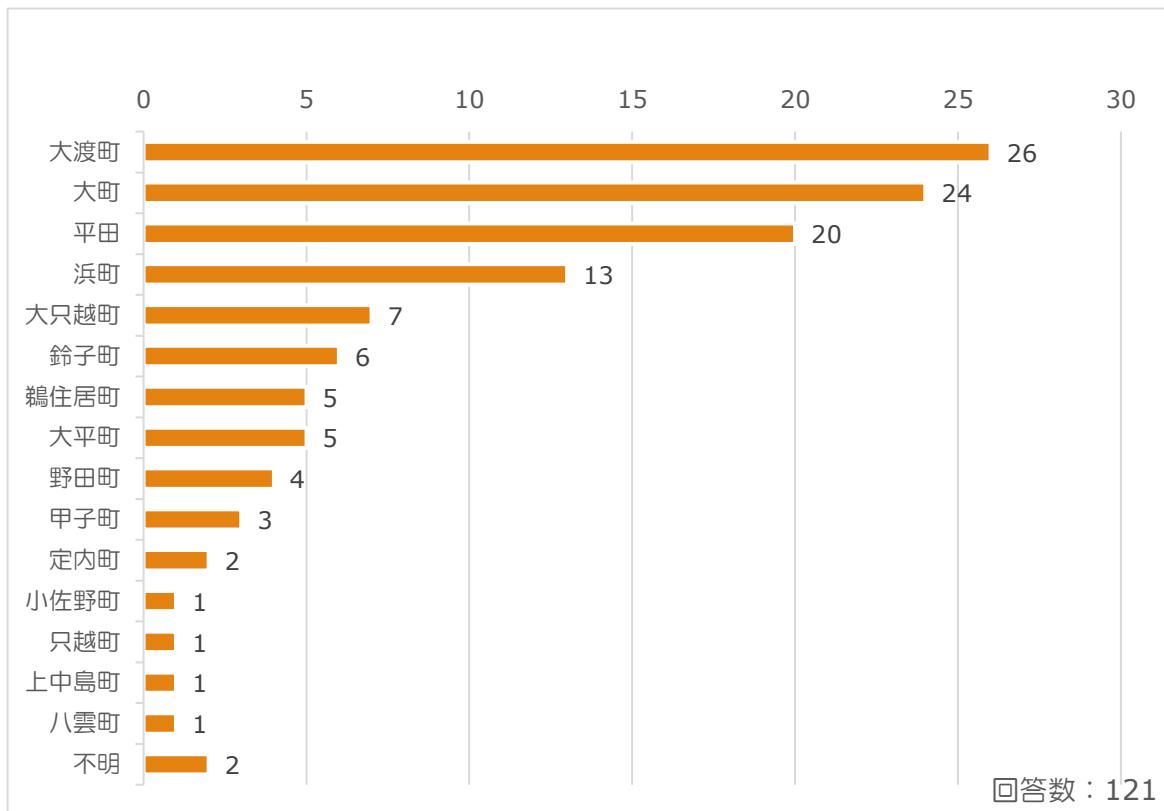
## (3) 国籍



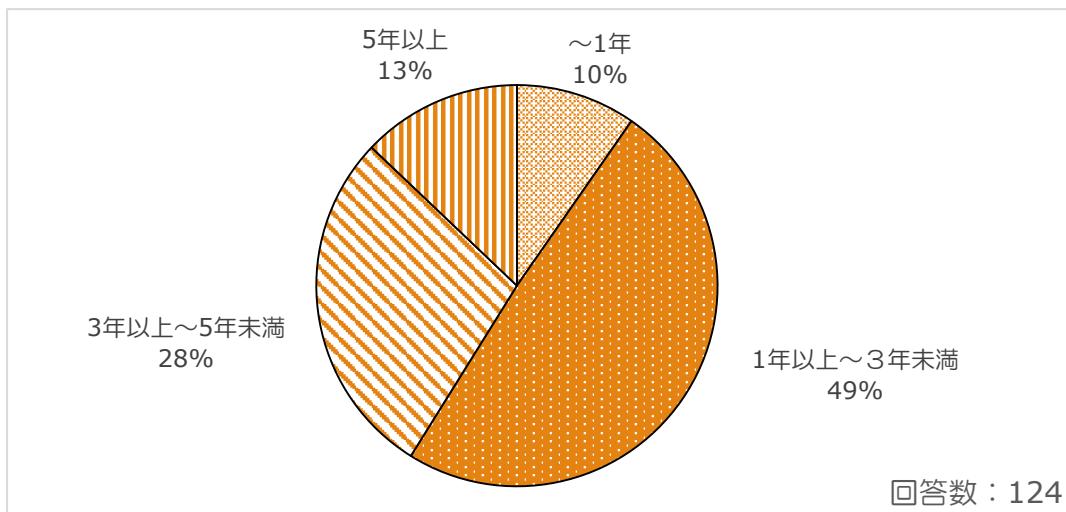
#### (4) 在留資格



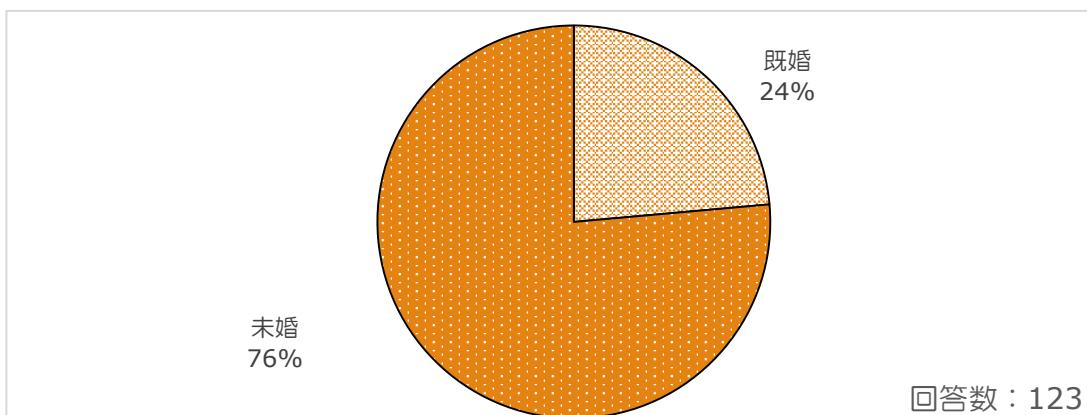
#### (5) 住んでいるところ



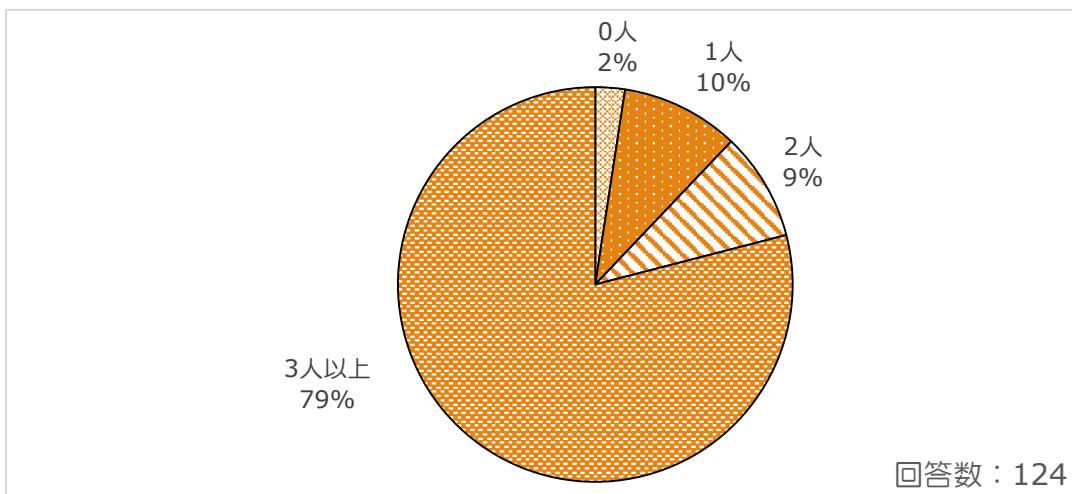
(6) 釜石にどれくらい住んでいますか



(7) 結婚をしていますか



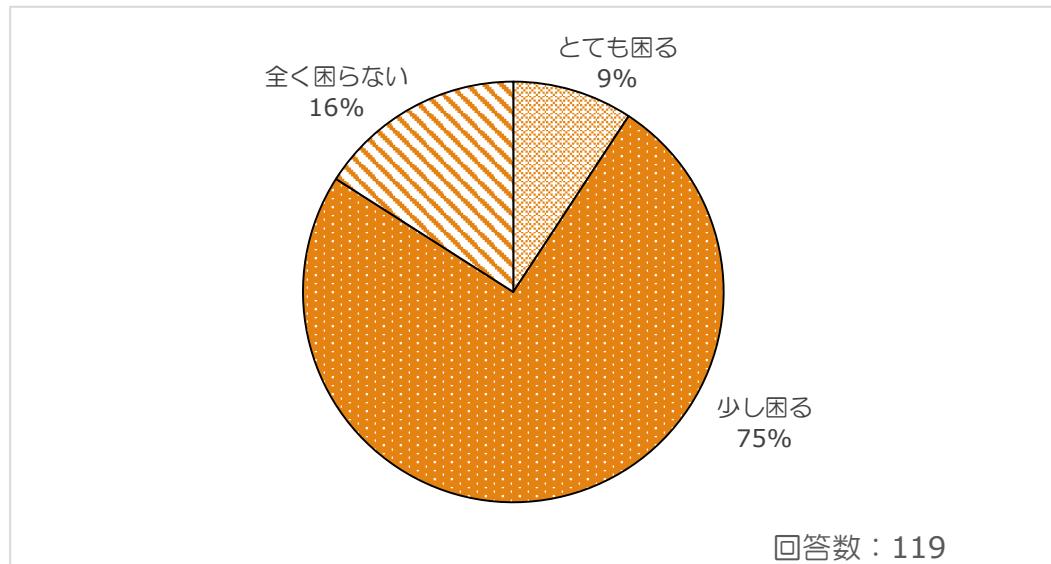
(8) 一緒に住んでいる人は何人ですか



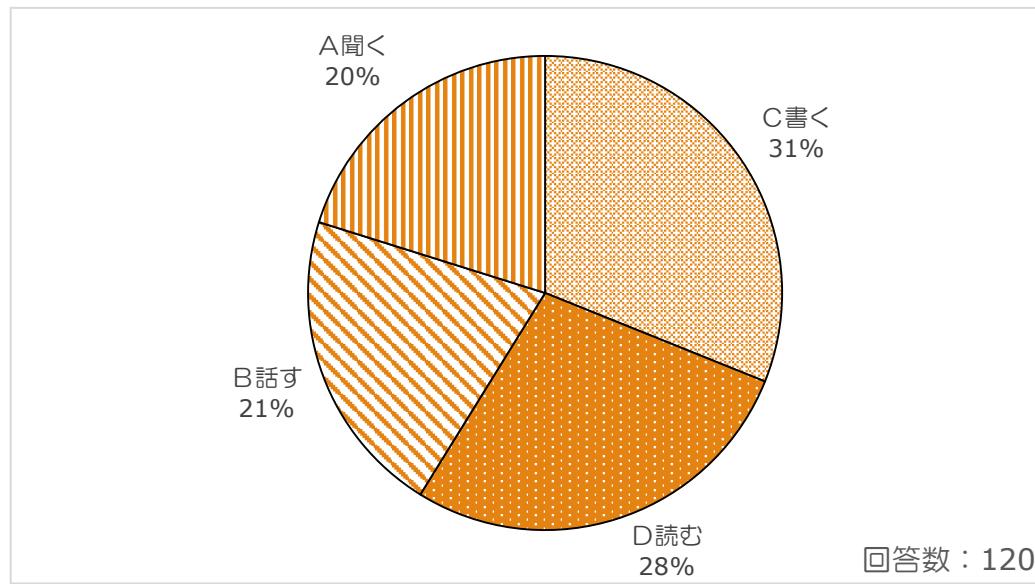
【アンケート】

2. あなたの日本語について教えてください。

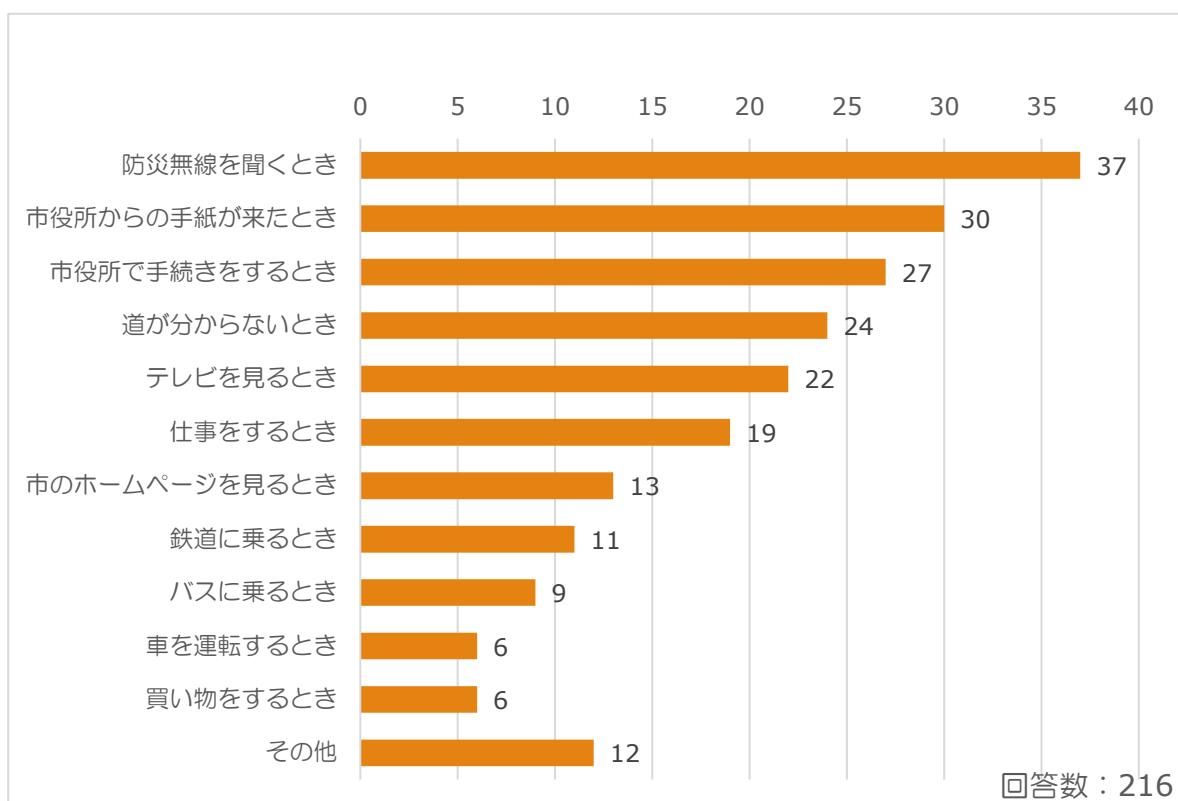
(1) 日本語で話したり、読んだり、書いたりするときに困ることはありますか



(2) どのような時に困りますか (いちばん困っていること)



(3) 生活のなかで、困るのはいつですか？（複数回答）



その他（自由記述）：

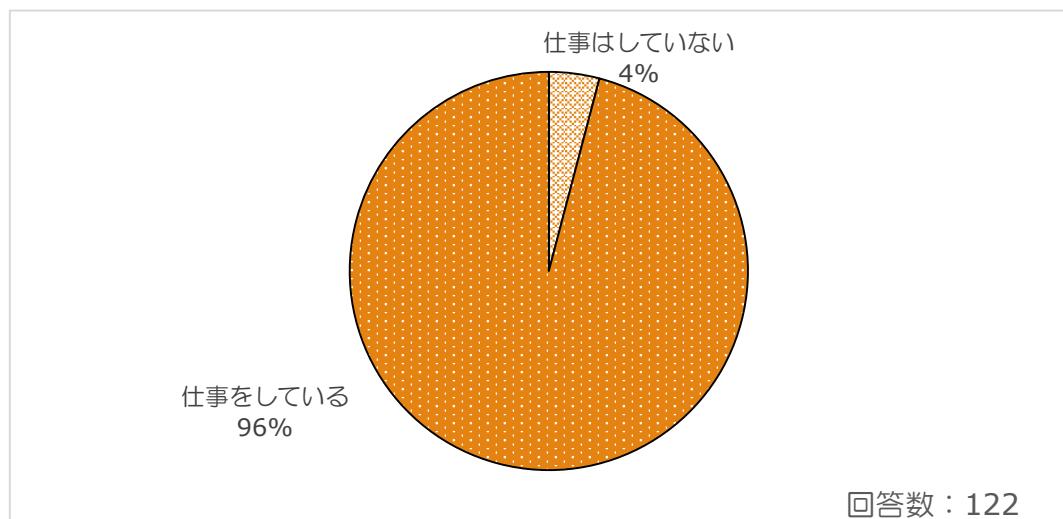
- ・市のホームページを見るとき（パソコン無し）
- ・防災無線が聞き取りづらい（言語の問題ではない）
- ・子供の学校からのメールや手紙
- ・まちに行くとき

### 3. 釜石の生活について、あなたはどうおもいますか？

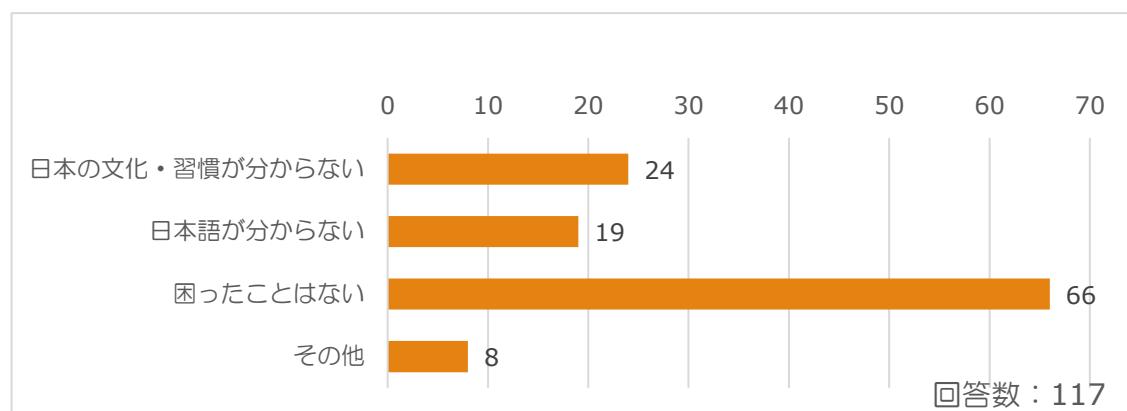
質問	回答	とても そうおもう	そうおもう	ふつう	おもわない	ぜんぜんおも わない	分から ない 無回答
1 自然がきれいだ	52	48	22	0	0	0	3
2 犯罪が少ない	33	35	31	2	0	0	24
3 学校や仕事に行きやすい	38	39	36	2	0	0	10
4 鉄道やバスが便利だ	37	38	22	14	0	0	14
5 家の周りが静か	49	40	31	1	0	0	4
6 近所の人がやさしい	31	47	21	2	2	2	22
7 買い物が便利だ	47	42	27	1	1	1	7
8 病院があるので安心	39	58	14	4	0	0	10
9 子育てで相談できる場所がある	11	30	9	9	1	1	65
10 ゴミがきれいに集められている	48	49	14	0	0	0	14
11 体育館やプールが使いやすい	8	22	18	10	5	62	
12 TETTOや図書館が使いやすい	7	42	17	7	2	50	
13 無料のWi-Fiがあるので便利	45	35	19	1	5	20	
14 市役所からのお知らせが分かりやすい	18	20	37	18	4	28	
15 健康診断や予防接種があるので安心	37	43	22	3	1	1	19
16 介護や障がい者への支援が分かりやすい	8	18	22	6	1	1	70
合計		508(26%)	606(30%)	362(18%)	80(4%)	22(1%)	422(21%)
2000							

### 4. あなたの仕事について教えてください。

#### (1) あなたは仕事をしていますか？



(2) 仕事をしている人は、仕事をするときに困ったことを教えてください（複数回答）

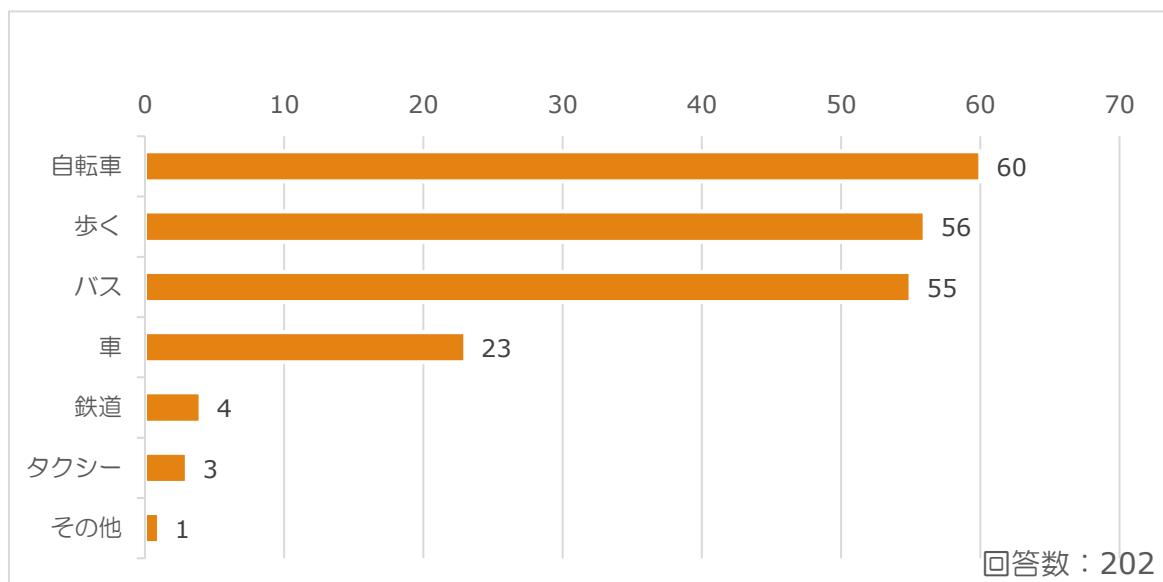


その他（自由記述）：

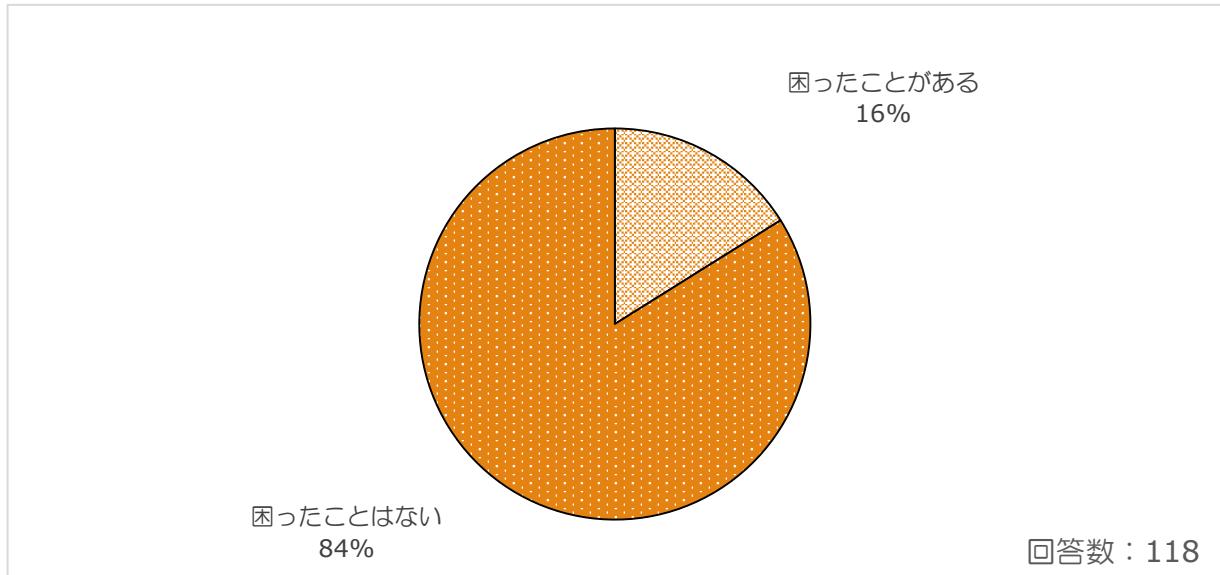
- ・日本人は仕事がおそい
- ・時々日本語が分からない
- ・孤立
- ・釜石弁、漢字（メール、文書）
- ・機械の使い方が良く分からない

5. あなたが使う交通機関（車、バスなど）について教えてください。

(1) 休みの日は、どのような交通機関をつかいますか？（複数回答）



(2) 交通機関をつかうとき、困ったことはありますか？

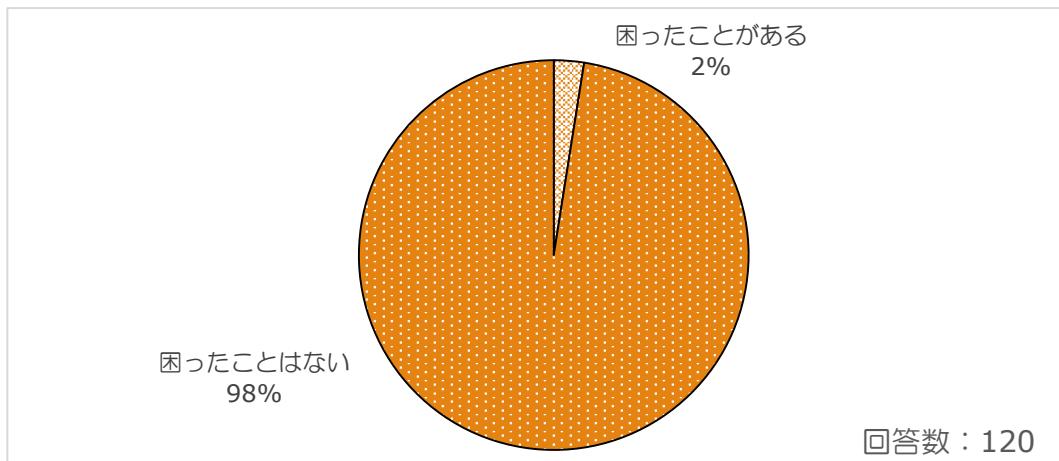


なぜ困ったか教えてください（自由記述）

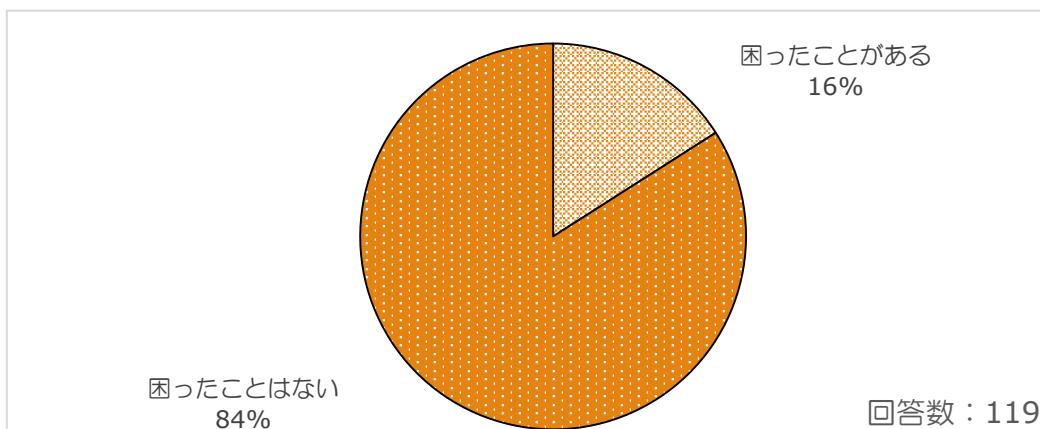
- ・「困ったこと」というほどではないが、日本人は私を怖がってバスで隣の席に座りたがらない。
- ・バスの時間がまちがいやすい
- ・バスの料金が高い
- ・外国人に限ったことではないが…待ち時間が長い
- ・ルートが便利ではない
- ・バスがどこに行くか、バス停がどこなのかの地図もなく、ふりがなもふってなくて困った。
- ・本数が少ない
- ・英語で書いてある所が少ない
- ・車が多い
- ・車酔い
- ・煽り運転するドライバーがいる。
- ・漢字の道路標識が分からない。
- ・標識が分からない

## 6. あなたの住んでいる家やアパートについて教えてください。

(1) 今住んでいる家やアパートを探すときや契約するときに、困ったことはありますか？



(2) 今住んでいる家やアパートで、困ったことはありますか？

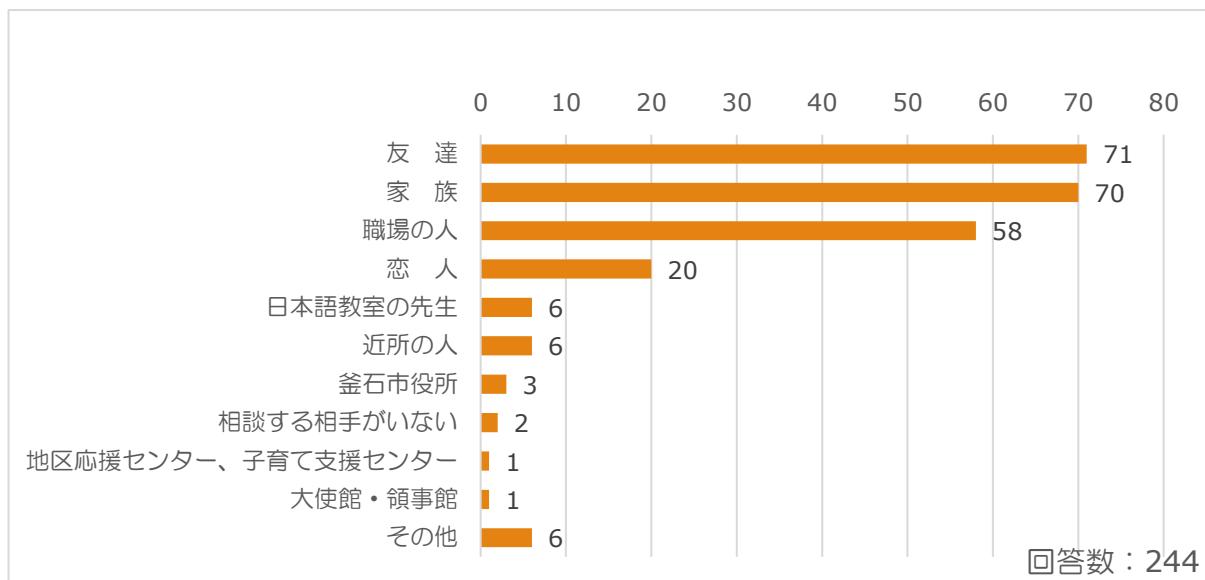


なぜ困ったか教えてください（自由記述）

- ・電器器具の使い方
- ・草刈がめったにされない。階段に虫とかごみが多い。
- ・水圧が弱い
- ・古い、エレベーターがない、周辺の除草がされていない、階段に虫がいる。
- ・家賃が高い
- ・家からスーパーまで遠い
- ・暗いときにあまり大丈夫じゃない。台所が狭い。
- ・土砂災害などの自然災害が懸念される。電車やバスが1時間に1本しかないのは課題。
- ・ゴミの捨て方が分からない

7. あなたの相談相手について教えてください。

(1) いつも、あなたが困ったときは誰に相談をしますか？（複数回答）

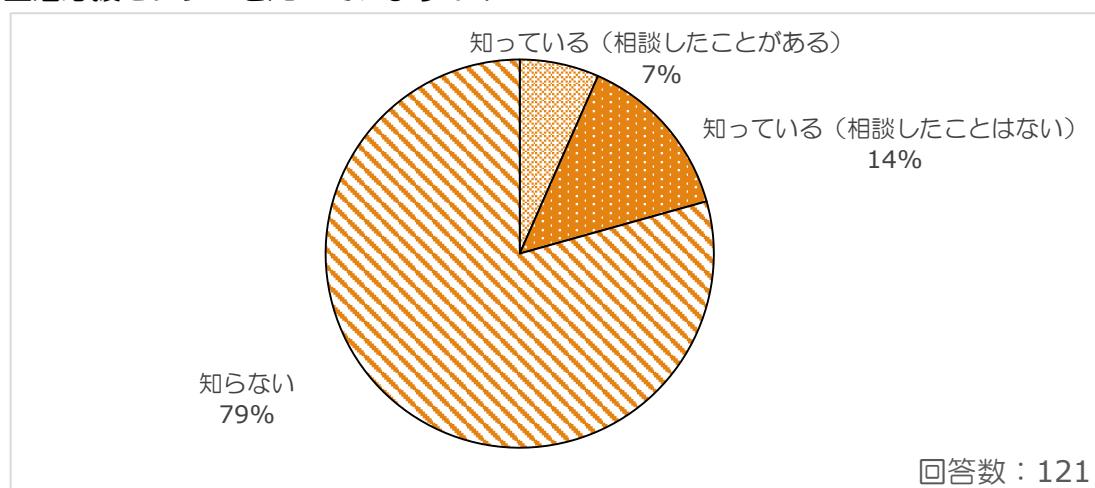


その他（自由記述）

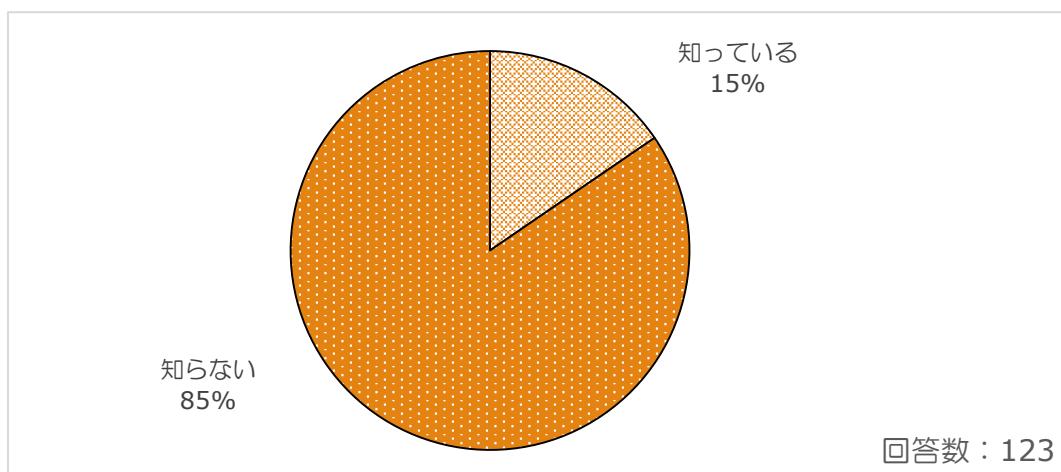
神様、管理人、妻

(2) 地域にある生活応援センターでもいろいろなことを相談できます。

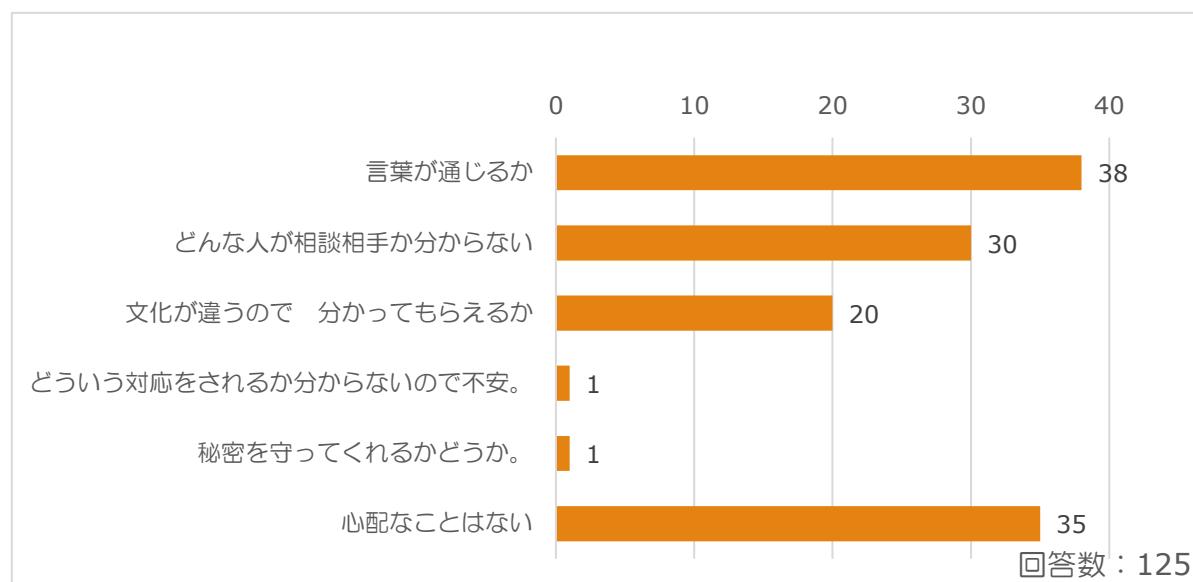
生活応援センターを知っていますか？



(3) 市役所にも相談できるところがあります。外国人相談窓口といいます。知っていますか？

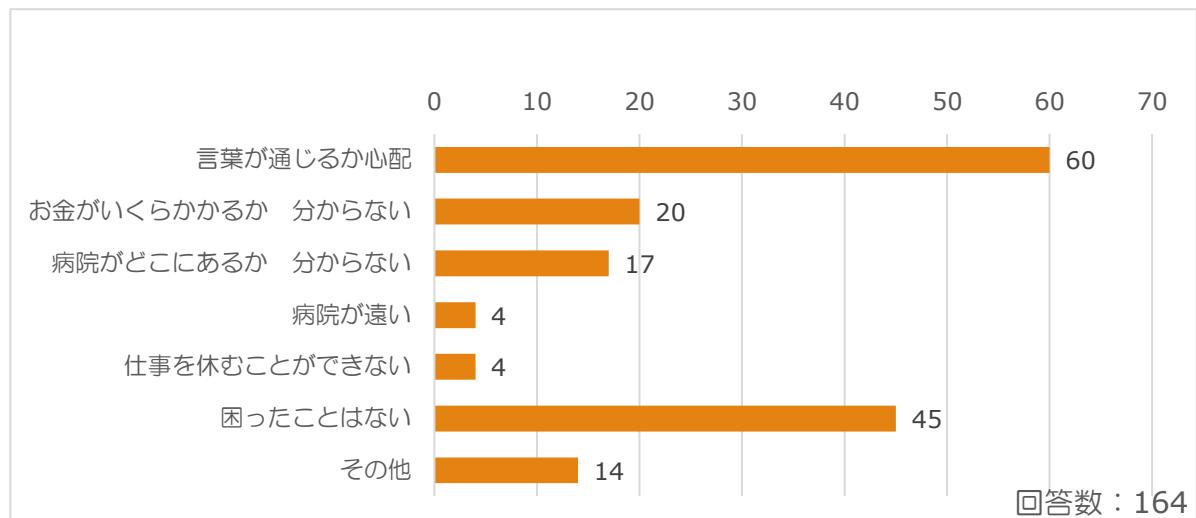


(4) 外国人相談窓口に相談するときに心配なことはなんですか？（複数回答）



8. あなたが病気やケガをしたときに、どうしているか教えてください。

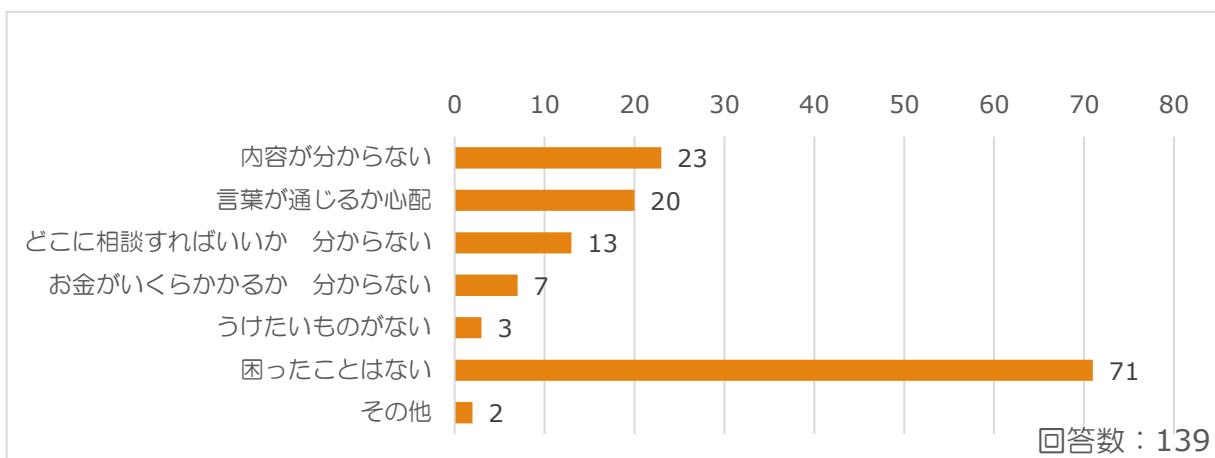
(1) 病気やケガをしたときに、困ったことや心配なことはありますか？（複数回答）



その他（自由記述）

- ・検診のシステムが難しい
- ・皮膚科がない
- ・会社の方が連れてってくれるから安心
- ・病気やケガをすると仕事ができない。病院にかかるお金がない。
- ・性差別
- ・どの病院にいけば良いか分からない

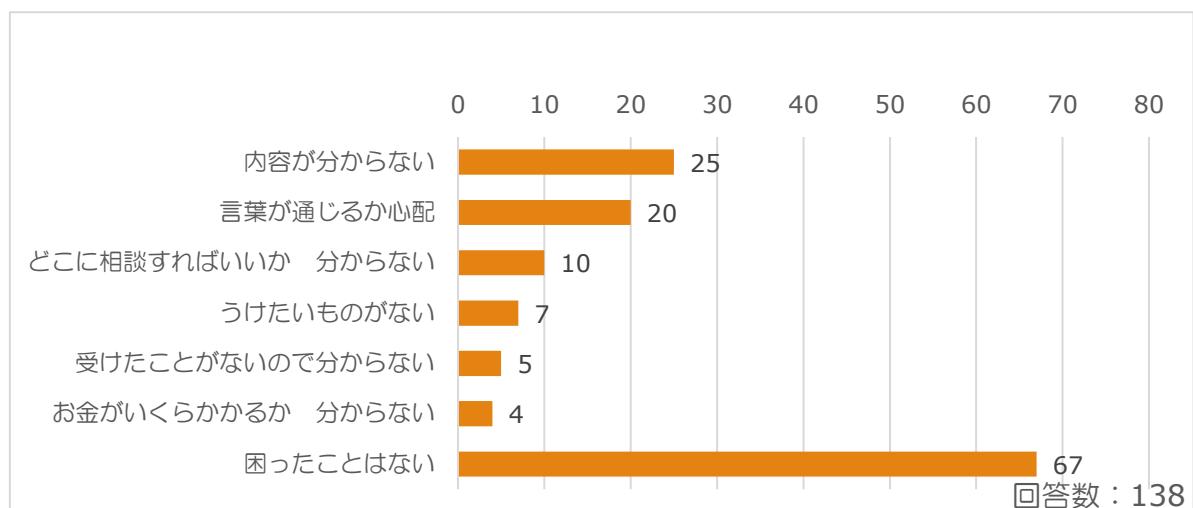
(2) 保健サービス（健康診断、予防接種、妊娠・出産など）をうけるときに、困ったことや心配なことはありますか？（複数回答）



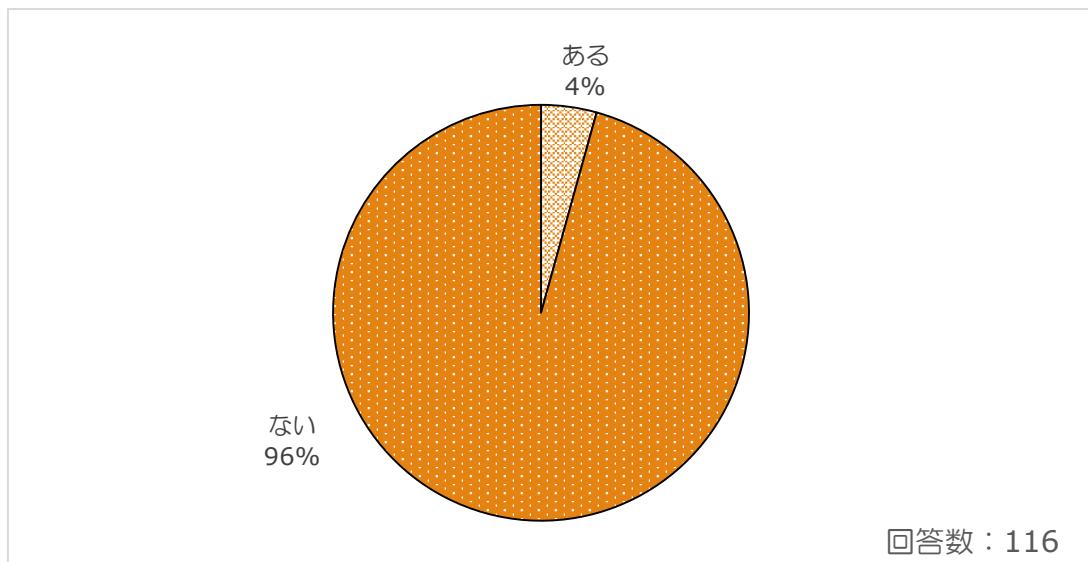
その他（自由記述）

- ・入院時の詳細な説明がない（入院期間、処置の内容、食事など）
- ・性差別

(3) 福祉サービス（高齢者の介護、障がい者への支援、生活保護）をうけるときに、困ったことや心配なことはありますか？（複数回答）



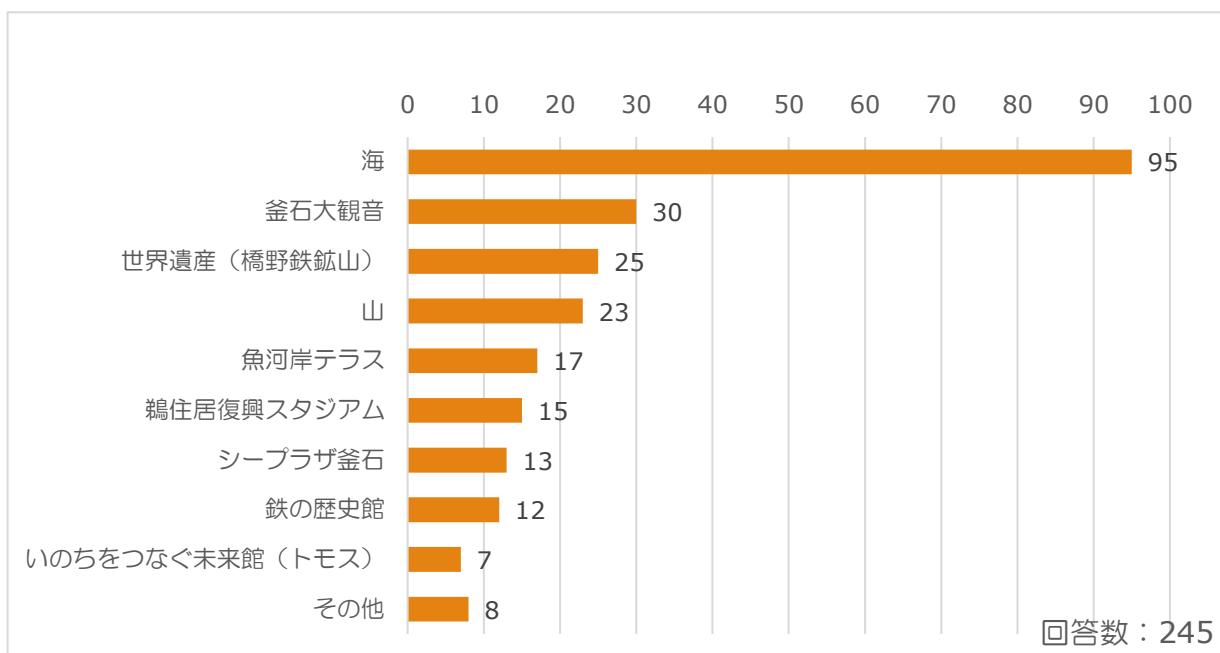
(4) 学校や保育園、幼稚園など、子育てや教育で困ったことはありますか？



(自由記述)

- ・子どもの学校のおともだちとのつきあい
- ・日本と自国の文化や教育の違いについて理解しようと努力しているが、難しい。
- ・子育ての文化が違うし、コミュニケーション方法も違うので理解するまで時間がかかる。
- ・ホームスクールの認知度が低い。

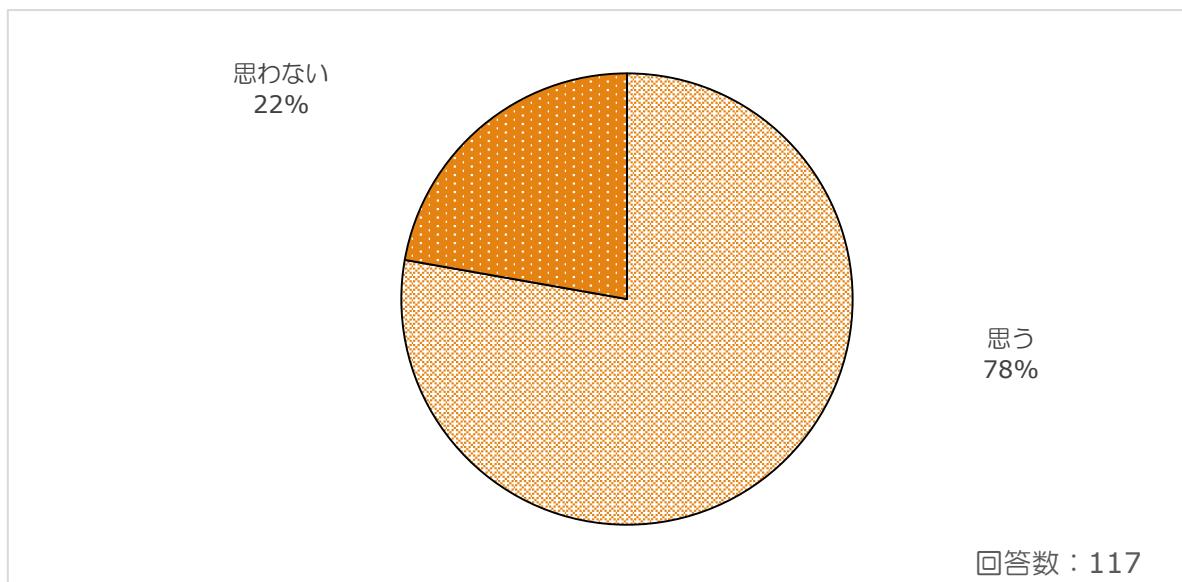
9. 釜石市で好きなところを教えてください。（複数回答）



その他（自由記述）

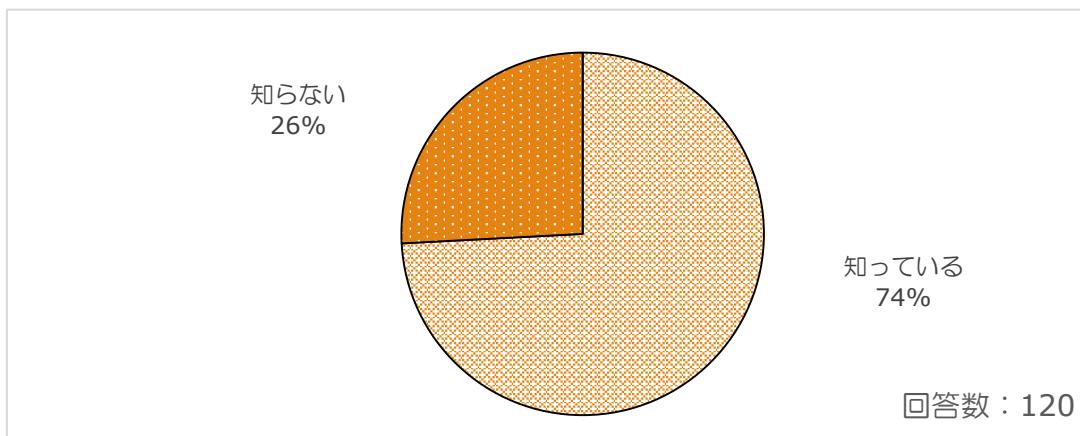
食堂、大平展望台、カヤック、公園、コスモス公園、あゆとく、イオン

（2）釜石市の歴史や文化について知りたいと思いますか？

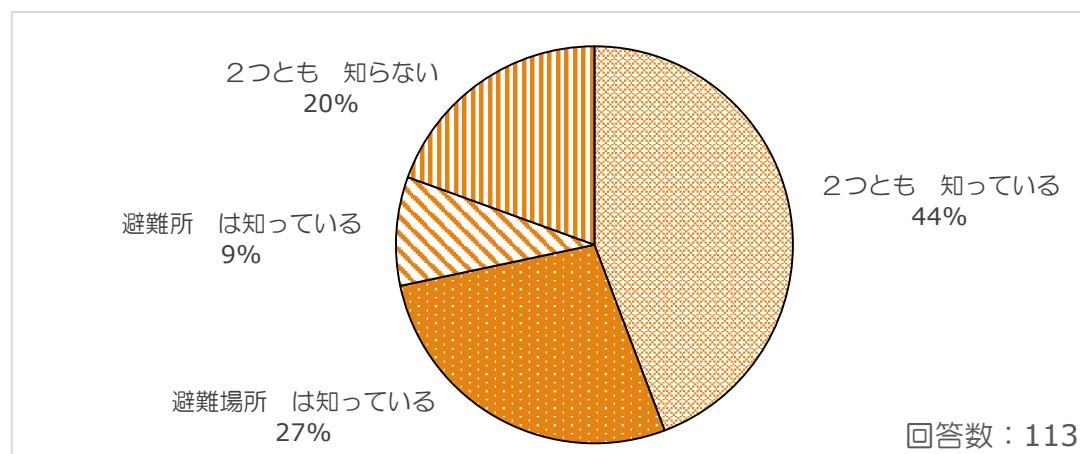


10. 釜石市の災害について、あなたの考えを教えてください。

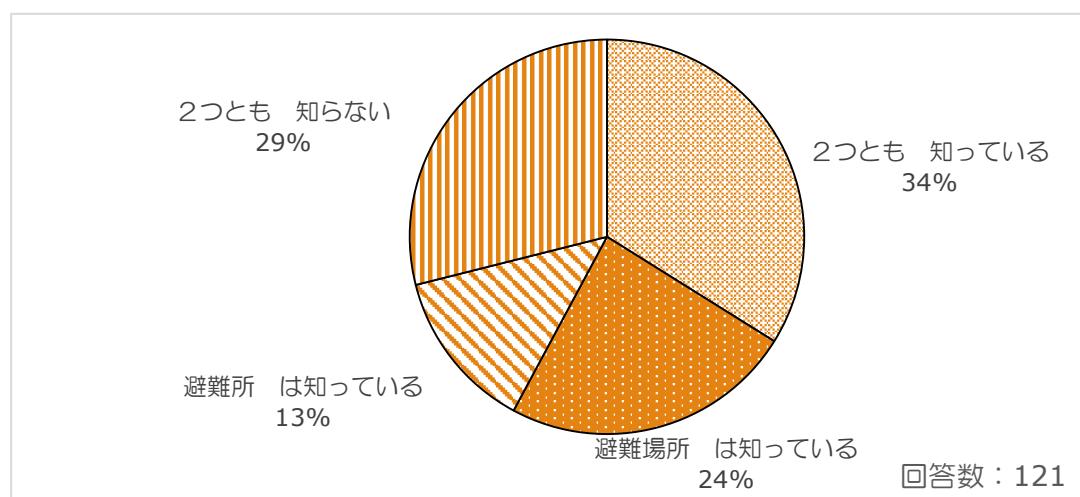
(1) 釜石市でどんな災害が危険か知っていますか？



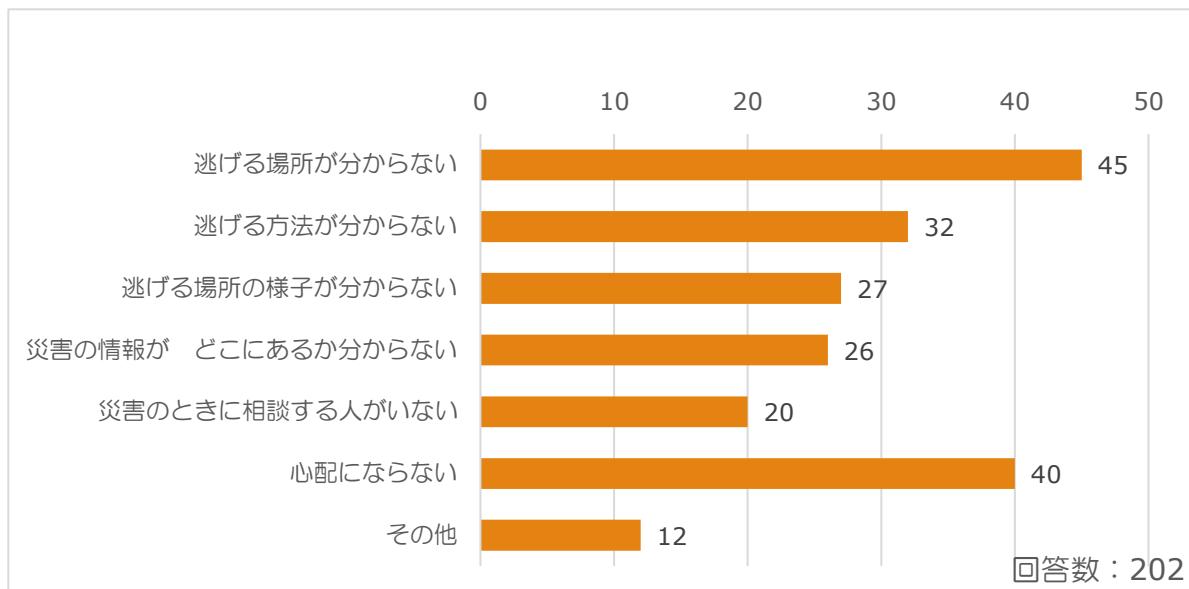
(2) 「避難場所」と「避難所」の意味を知っていますか？



(3) 住んでいる家やアパートの「避難場所」と「避難所」の場所を知っていますか？



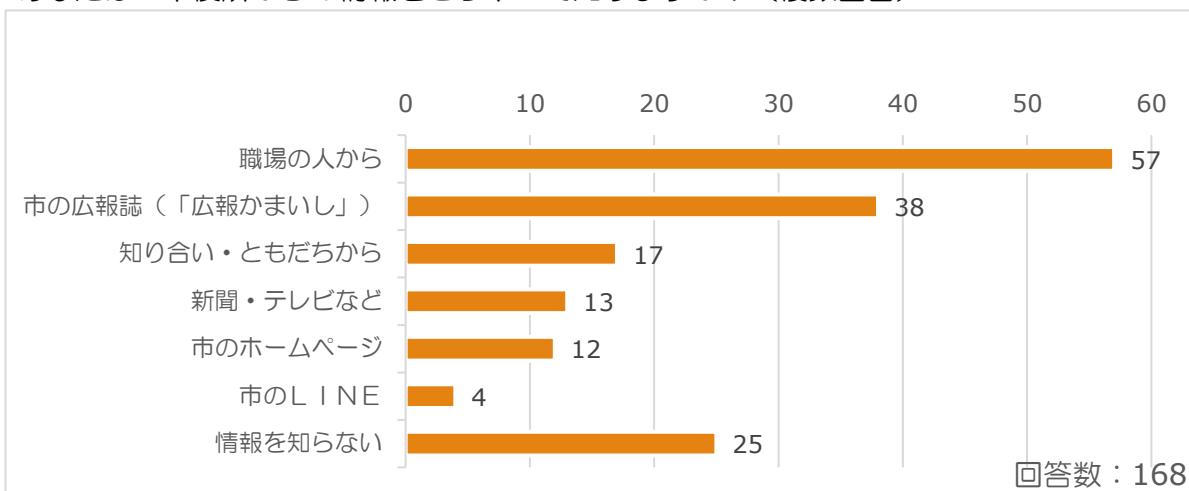
(4) 災害のときに、どんなことが心配ですか？（複数回答）



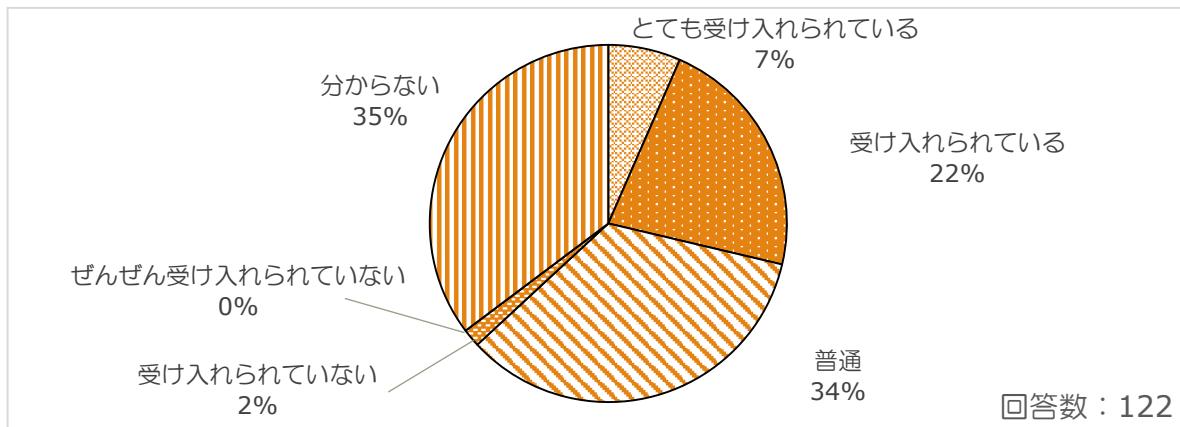
その他（自由記述）

- ・避難情報が出ても誰も避難しないので混乱する。大体はみんながどうするか見てから行動する。
- ・避難場所に間に合わない
- ・逃げる場所が遠い
- ・逃げるタイミングが分からない
- ・身体障害者が居るので逃げるとき一人では不安。
- ・緊急避難袋に何を入れたらよいか分からない
- ・避難した場所のルールが分からない
- ・できれば他の人の手助けをしたい。

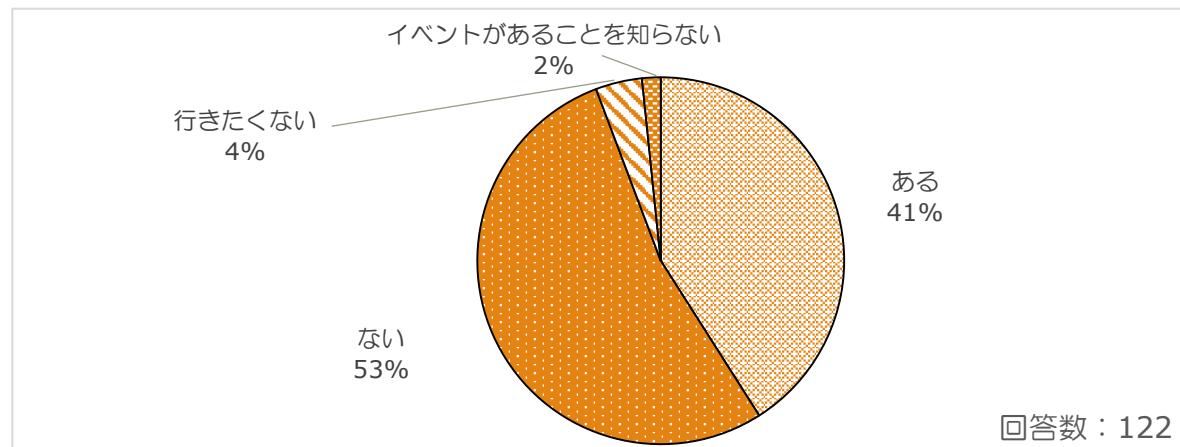
11. あなたは 市役所からの情報をどうやって知りますか？（複数回答）



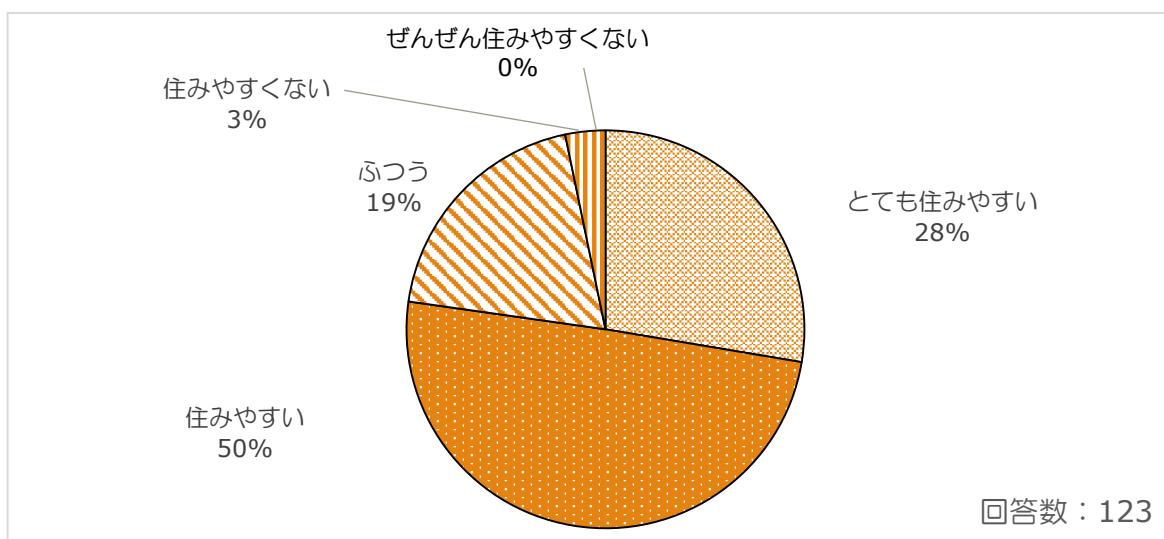
12. あなたは釜石市の市民として、まわりから受け入れられていると感じていますか？



13. 町内会などの地域のイベントに参加したことがありますか？（例：ごみ拾い、盆踊り、おまつりなど）



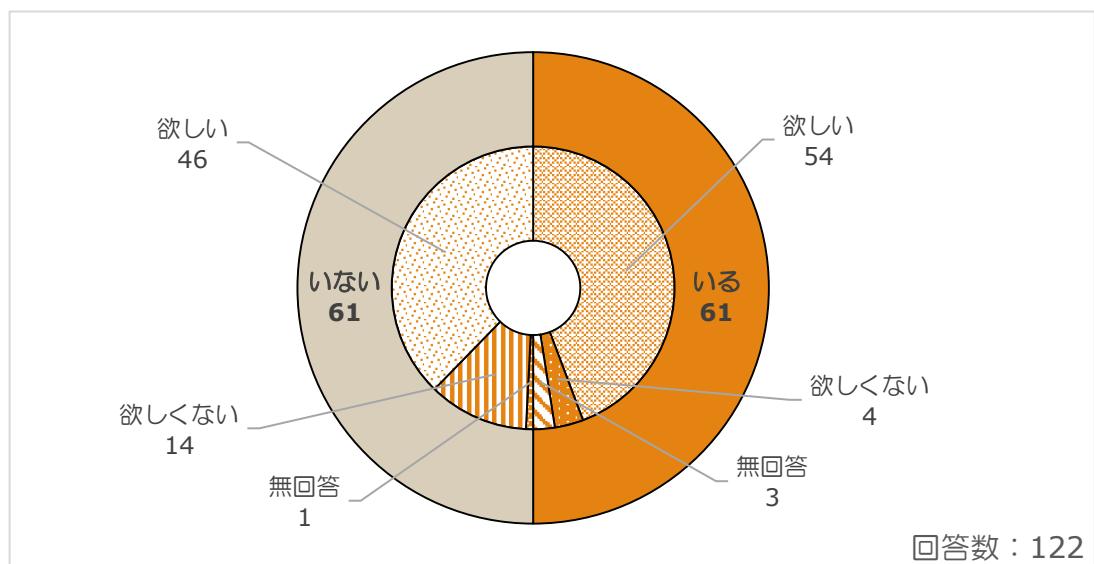
14. あなたにとって、釜石市は住みやすいですか？



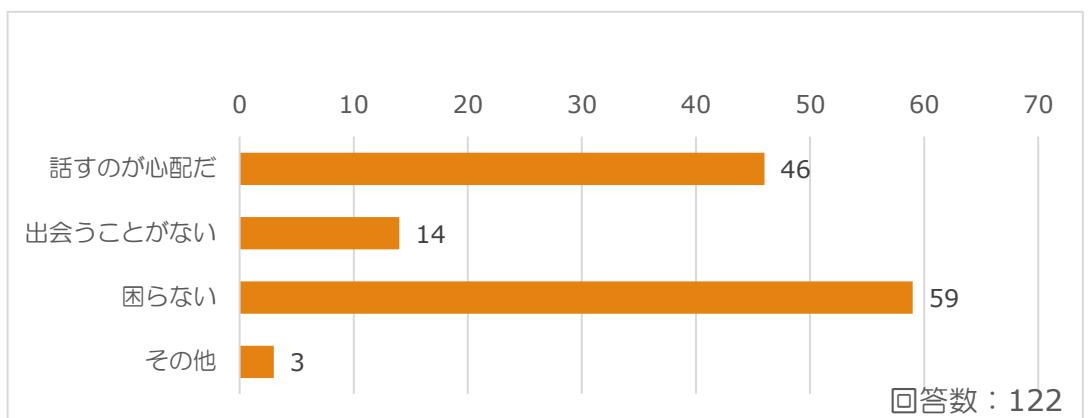
## 15. あなたのともだちについて、教えてください

(1) 日本人のともだちがいますか？（円グラフ外側）

(2) 日本人のともだちが欲しいですか？（円グラフ内側）



(3) 日本人のともだちを作るときに、心配なことや困ることはありますか？（複数回答）

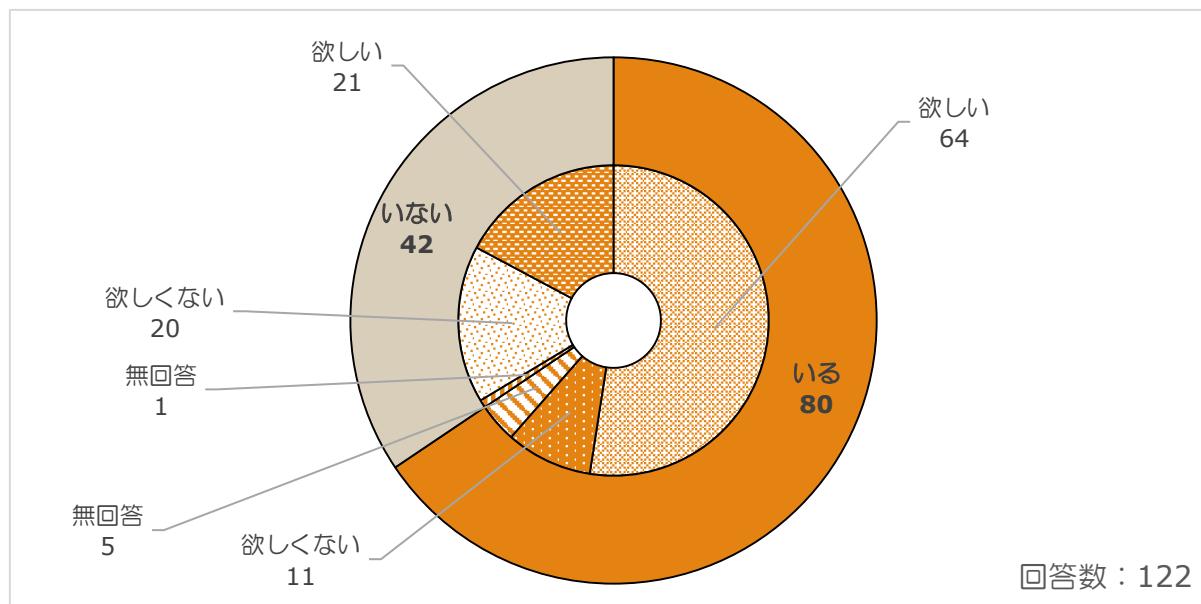


### その他（自由記述）

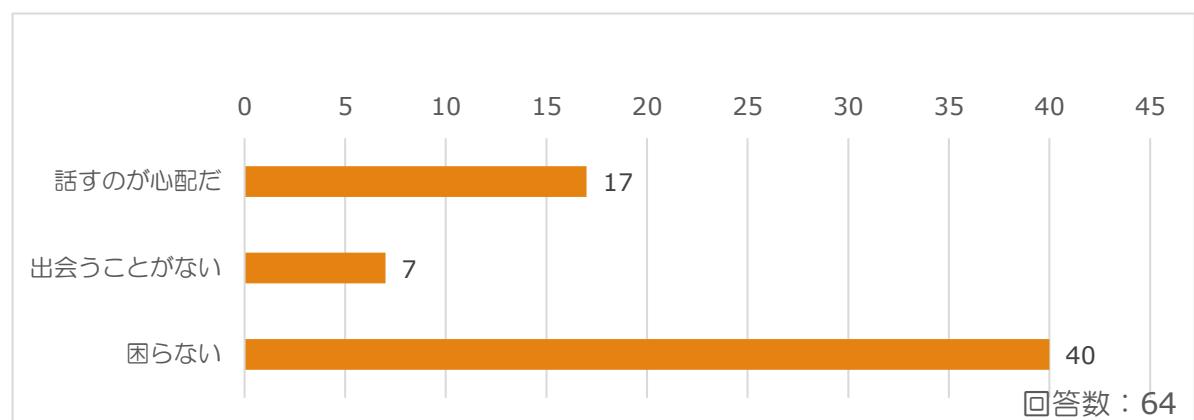
- ・自分の言語力を向上させる必要がある、みんな忙しい。
- ・文化の違い
- ・終バスが早いし、会う機会がない

(4) 日本人以外のともだちが いますか？（円グラフ外側）

(5) 日本人以外のともだちが 欲しいですか？（円グラフ内側）



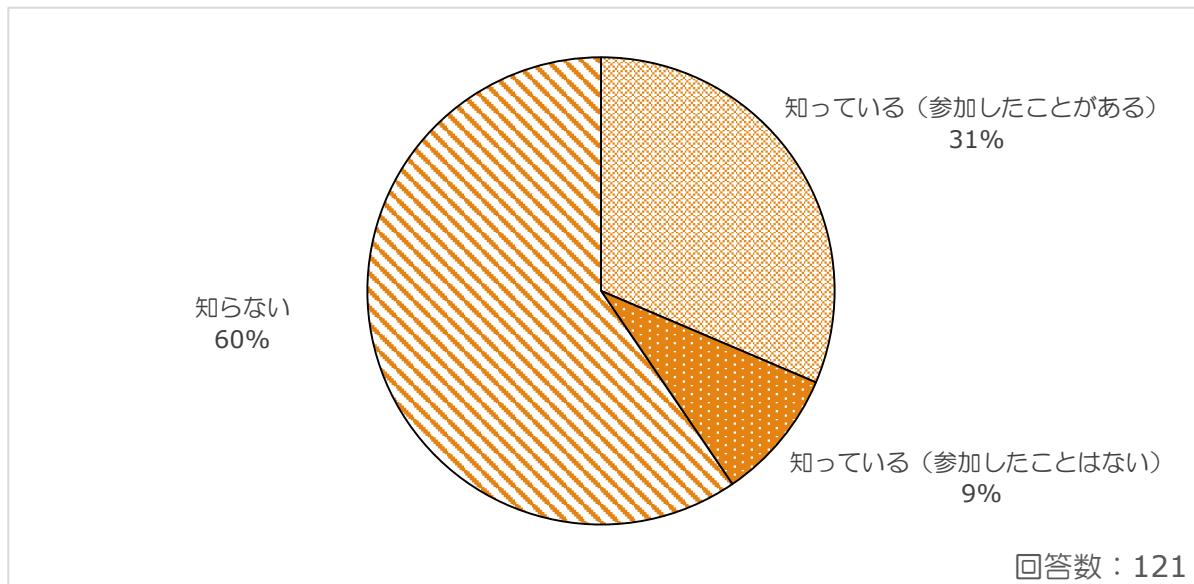
(6) 日本人以外のともだちを作るときに心配なことや困ることはありますか？（複数回答）



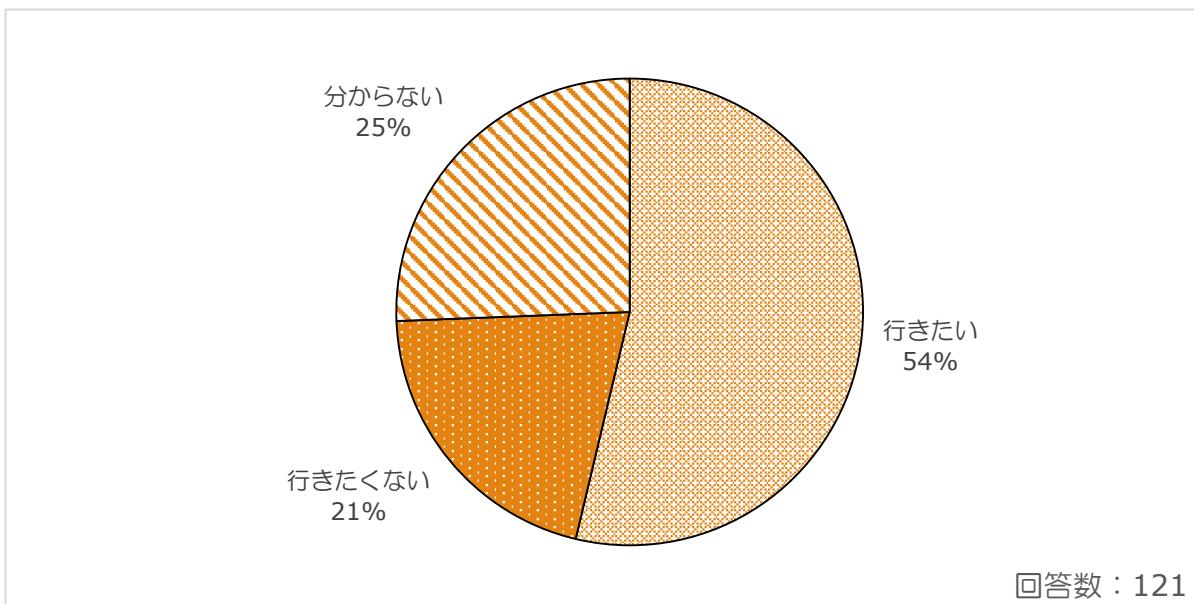
## 16. 釜石市国際交流協会について

(1) あなたは釜石市国際交流協会を知っていますか？

(交流イベントをしたり、釜石よいさに参加しています)



(2) 釜石市国際交流協会のイベントに行きたいですか？





## 釜石市多文化共生推進プラン



発行：釜石市 文化スポーツ部国際交流課

〒026-0031 釜石市鈴子町 22-1 シープラザ釜石 2 階

電話：0193-27-5713 FAX:0193-31-1170